

都高退教ニュース

NO. 96

2020年4月01日

東京都高等学校教職員組合退職者会

千代田区一ツ橋2-6-2 都高教内
TEL 03-3230-2166 (代)



「五日市憲法草案」碑（「五日市中学校」内）

五日市憲法草案抜粋

45日本国民ハ各自ノ権利自由ヲ達ス可シ 他ヨリ妨害ス可ラス 且国法之ヲ保護ス可シ

48凡ソ日本国民ハ日本全国ニ於テ同一ノ法典ヲ準用シ 同一ノ保護ヲ受ク可シ 地方及門閥若クハ一人一族ニ与フルノ特権アルコトナシ

76子弟ノ教育ニ於テ其学科及教授ハ自由ナルモノトス 然レドモ子弟小学ノ教育ハ父兄タル者ノ免ル可ラサル責任トス
(写真提供：KHさん)

都高退教定期総会

5月30日(土)

13時15分～14時半

日本教育会館707

(地下鉄「神保町」下車5分)

アピール希望の方は幹事へ

終了後引き続き、「憲法学習会」を行います。

こちらもご参加を！

日比谷メーデー

5月1日(金)

10:00～

日比谷野外音楽堂内

緑の退職者会の旗の

下（「都高教」の旗近く）

(詳細未定)

終了後、「懇親会」を開きます。大勢の方の参加をお願いします。

憲法学習会

「憲法とジェンダー」

5月30日(土)

15時～17時

日本教育会館707

講師：中野麻美さん

(弁護士)

定期総会終了後同会場にて

(詳細は別ページにて)

5・3 憲法集会「2020 平和といのちと人権を！」(13時～)

於：有明防災公園 (りんかい線「国際展示場」・ゆりかもめ「有明」下車)

もくじ

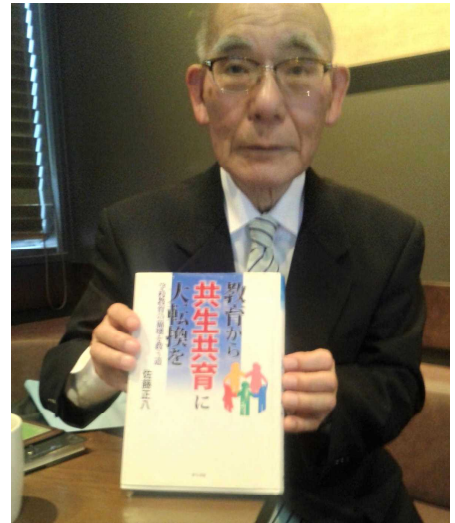
「血の気の多さは今も変わらず—地域活動に全魂込めて—」 佐藤正八さんへのインタビュー……………	3
2020年は、真に長時間労働解消に向けて、正念場の一年です 都高教執行委員長 小嶋広行……………	5
講演「原発をつくったかたから言える原発の本当の恐ろしさ」 (19・11・30「原発学習会」) (講師 元原発技術者 小倉 志郎さん)……………	6
『放射線副読本』書かれていないことと巧妙なごまかし 後藤 康彦……………	12
地公退「憲法学習会」を聞いて 芥川 治子……………	15
伊藤詩織さんの民事裁判を傍聴して 本村 富美子……………	16
2020年春 社会保障の動向 平岡 良久……………	17
東京「君が代」裁判 10・23通達体制を打破するため闘い続けます！ 近藤 徹(「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会)……………	18
東京「君が代」裁判、五次訴訟提訴へ 鈴木 毅……………	18
被処分者に再任用打ち切りの事前通告 大能 清子……………	19
再任用更新拒絶裁判報告 ご支援ご協力ありがとうございました……………	14
和気あいあいの2019年東京都退職教職員困碁大会報告……………	21
東京歴史散歩(麻布界隈を歩く)を終えて 川口 政利……………	22
『原発は日本を滅ぼす』(書評)……………	24
大学入試共通テストの記述式断念から見えるもの 片山 亨……………	26
東京発:15歳のヒロシマ 山田 進……………	27
核兵器廃絶署名のお礼と報告……………	29
東京オリンピックと新型コロナウイルスのこと もしくは英語のお勉強……………	30
読書 『ゲッベルスと私—ナチ宣伝相秘書の独白』紀伊國屋書店……………	31
カンパのお礼とお願い……………	32
日本教職員相互共済会からのお知らせ……………	33
憲法学習会「憲法とジェンダー」(講師 中野 麻美さん)案内……………	35
2020年度第6回辺野古座り込みツアーのお誘い……………	36

血の気の多さは今も変わらずー地域活動へ全魂を込めてー

佐藤 正八さん

どうもお待たせしました。お元気そうですね。相変わらず活動的でいらっしゃるようで。

現在、「共生共育研究所」代表をしており、著書『教育から共生共育に大転換』が私の思想・行動の源泉になっています。その上で、「鴻巣憲法 9 条の会」、「戦争をさせない埼玉県 1000 人委員会」、「市民が野党をつなぐ埼玉 6 区連絡会」、及び「日中友好 8・15 の会」で活動しています。



地域での活動はお若い頃から行っていたとお聞きしましたが。

転機となったのが、『草の乱』。2003 年に制作された、この映画は秩父困民党蜂起の 130 周年記念として制作された映画で、娘の関係者からその話を聞きまして、この映画の自主上映会を地元の鴻巣でぜひやろうと地域の有志と実行委員会を立ち上げました。「鴻巣市文化センター大ホール」で行い、午前、午後、夜と、どの回もたくさんの方が観に来てくれまして、大盛況でした。それから本腰で地域から平和運動のうねりを、と。

2005 年 5 月に設立の活動を始め、11 月に「鴻巣憲法 9 条の会」の設立総会を盛大に行い、代表世話人として活動を始めました。月一回の世話人会、これまでに 203 回行いましたが、一度も欠席したことはありません。レジュメを作成してます。すでに 15 年以上の歴史があります。600 余名が入会し、死亡、退会、転居等で現在 450 人の会員がいます。年一回の総会、講演会、秋にイベントを行っています。今年は 5 月に望月衣塑子さんの講演会と総会を予定しています。

こうして現在も続けられている市民運動の原点は地域活動からだったのですね。

地域での活動は赤羽台団地からです。働く者が主人公になる社会をめざし、成田知己が好きなこともあり、20 代の後半に社会党に入党しました。

現在は、「戦争をさせない埼玉県 1000 人委員会」で、呼びかけ人の一人として新聞に「安倍内閣の戦争する国づくりに反対する」意見広告を出す活動をしています。市民に呼びかけて、カンパでやっています。

オール埼玉総行動実行委員会の地域組織の一つである「市民が野党をつなぐ埼玉 6 区連絡会」の共同代表をし、「野党共闘」の前進に動いており、連合、労連、さらに弁護士会が協力して運動を進めていることもあり、埼玉は大きな成果を上げています。

「日中友好 8・15 の会」ですが、「日中友好元軍人の会」を改名したもので、会誌を毎月発行し、度々寄稿しています。この会は、元陸軍中將の遠藤三郎さんによって創設されたもので、常任幹事として活動しています。「7・7 盧溝橋事件」が日本の侵略戦争を始めた日と位置づけて、「7・7」平和集会を行ったり、訪中団を組織し、中国を訪問しています。

ずいぶんと多忙な日々を送っていらっしゃるんですね。

私の研究活動、地域活動の原点は『教育から共生共育に大転換を 学校教育の崩壊を救う道』というこの著書です。退職してかなり時間を掛け、研究し、草稿を何度も書き直し、やっと発刊できました。2004 年のこの本で、崩壊しつつある学校教育をどう転換していったらいいかを現場からの視点をもとに、提言しました。「共生・共育」という観点の大事さは今でも変わりません。いろいろな方から書評やら励まし、ご意見をいただきました。

「共生・共育」は、学校はもちろん、地域活動での原点でもあります。

なるほど。今も拝見しても「豆腐人間の出現」とかユニークな視点が随所に。現在も有効な提言がちりばめられています。正八さんの学校現場での実践と調査研究の徹底ぶりが如実にうかがわれ

まず、ところでどちらのご出身ですか？

出身は、福島県田村市です。福島原発の西南に位置します。故郷の一部が避難区域に指定され、汚染区域もあります。

当時は、日本の中でも貧しい農村と言っているでしょう。中学卒業後、働きに出る人が多かった時代、大学に行けたのは 150 人中ごくわずかという環境でした。私も手に職をとということで工業高校に行き、日立製作所日立工場に就職しました。しかし、何とか大学で勉強したい、進学しようという思いが強く、2 年半勤めて上京し、予備校に通って大学受験を目指しました。東京学芸大学に入学したのは 21 歳の時です。世間で言う 3 浪ですね。

在学中に先生からの勧めで小金井工業定時制の実習助手となりました。昼間は大学、夜は実習助手としての生活、当時はこういうことが許されたんですね。1965 年、大学を卒業して、本所工業定時制の教員となりました。定時制を希望したのは、大学院に進みもっと研究をしたかったからです。教員生活と研究生活の二足わらじでした。

都高教でも執行委員として積極的に活動なされました。

組合活動は、分会本部委員になったのが、最初です。対立候補と 3 回投票しても 16 対 16。埒があかないので、一年を前期と後期と分けて本部委員会に出ました。懐かしい思い出です。その時に坂牛さんや西沢さんに出会いました。

1978 年から 2 年間、山寄さん（昨年亡くなられました）の後釜として定時制部長となりました。その間、定時制統廃合反対闘争のために『定時制白書』をつくりました。校正などで不備な点はたくさんありましたが、今でも自負できる書です。さらに専従執行委員、都労連専従などをやり、再び現場に戻りました。最後は北豊島工業全日制です。

58 歳で退職後は、3～4 年間は先ほどの本を書くのに没頭しました。

さきほどお話に出た娘さんですが。

娘ですが、ご存じな方もいるかも知れませんが、高橋真理子です。

山梨県立科学館のプラネタリウムで 19 年間、斬新な企画や番組制作を行ったのち、2013 年に独立、現在は、本物の星空をなかなか見られない人に星や宇宙を届ける活動「病院がプラネタリウム」や、星を介して人をつなぐ活動を精力的に行っています。各種テレビや NHK ラジオの深夜番組に出たり、新聞でも大きく報道されたり、本も 2 冊出版し、様々な賞を受賞しています。

とてもお元気でいらっしゃるようすに安心しました。これからもご活躍下さい。

もうじき 81 歳になります。足腰が衰えないよう毎日 1 時間くらいは歩くようにしています。まだまだやる事がたくさんあります。お互いに頑張っていきましょう。



遅刻してはいけないと、待ち合わせ場所に 20 分以上も前にお着きになり、私たちが待っていたそうです。

現役時代よりも少しおやせになったようですが、こうした地域活動はもとより「退職者会囲碁大会」の常連として、今も「(本人曰く) いっこうに上達しない」囲碁を打っているそうです。

かつてと変わらない、相変わらず几帳面で多弁な正八さんでした。(文責：平岡)

「都高教」からのメッセージ

2020年は、真に長時間労働解消に向けて、正念場の一年です。

都高教執行委員長 小嶋 広行

2019年度も終わろうとしています。1月には役員選挙が行われ、2020～21年度の新執行部体制も決まりました。いくつかの課題を報告させていただきます。この文章を書いている最中、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で、学校現場は異例な年度末を送っています。

「働き方改革」実効元年、本格的な闘いが始まります

昨年末の臨時国会で、「給特法」が半世紀ぶりに改正されました。改正と言っても私たちが望む、廃止・抜本的見直しという点からすれば、大きく隔たりはあります。しかし、これまで「自主的・自発的」とされてきた長時間労働の実態が、「在校等時間」という形で法的に認知されたことは良としたいと考えます。「改正」の柱は二本です。

一つは、7条関係、月超勤「45時間上限指針」です。単なる「努力目標」ではありません。法律です。本来の意味の罰則規定はないと言っても、事によれば信用失墜行為として、懲戒処分等の対象となり得ると文科大臣は答弁しています。「指針」には「在校等時間の長時間化を防ぐための他の取組と併せて取り組まれるべきものであることに十分留意しなければならない」とあります。都教委は、部活動指導員、学校閉庁日など「働き方改革」に取り組んでいますが、現場の教職員は実感していません。教職員定数改善・持ち授業時数減、そして何よりも様々な業務の削減がなければ実現しないことは、言うまでもないことです。

もう一つの5条関係「一年単位の變形労働時間制」は、いわゆる繁忙期の勤務時間を延長し、その分を「閑散期」の夏休みに「まとめ取り」とするということです。勤務時間が延長されることで、現在の長時間勤務の容認・黙認の懸念、育児や介護・通院などの事情を抱える教職員への負担、労使協定締結ではなく条例での導入など、様々な問題点があります。萩生田文科大臣も「これを単に導入すること自体が日々の教師の業務や勤務時間を縮減するものではありません」と国会答弁しています。そうしたものをあえて導入する必要は全くありません。

現在の都立高校の現場実態では夏休みといえども、補習・補講、就職指導、部活動はもとより合宿引率、9月当初の文化祭準備など、多岐にわたって多忙な時期となっています。決して、「閑散期」ではありません。どんなに勤務時間をいじっても、業務そのものが減らない限り、超勤はなくなりません。

国会審議では日政連議員の奮闘により、多くの「附帯決議」が与党も含めてなされました。それだけ課題があるということです。

真に教職員全体が実感できる長時間労働の解消を求め、都高教は引き続き取り組んでいきます。

定年年齢の引き上げについて国会で審議が予定されています

現在の通常国会で、定年年齢の引き上げに関する改正案の審議が予定されています。その開始時期・給与水準・退職手当の問題等、組合員の不安は大きなものがあります。4月から「会計年度任用職員制度」も始まり、「高齢期」の雇用のあり方が大きく変化しようとしています。国会の状況を注視しながら、東京都・教職員の実情に合った定年年齢の引き上げ、給与水準・退職手当等、さらには現在の再任用・臨時職員等の処遇改善を求めて、都労連・東京地公労とともに取り組んでいきます。

やはり組織拡大です

職場での課題解決に対し、個人・一部の人だけで考えるのではなく、職場の仲間と意見交換し、支え合っていくのが都高教です。しかし、現在の都立高校では、多忙な職場の中、職場の同僚性が希薄になったと聞きます。

「一年単位の變形労働時間制」を阻止し、働きやすい職場を実現するために、これまで以上に職場の交渉力が問われます。

各職場の努力により、組合加入は実現していますが、残念ながら十分とは言えません。

2020年は都高教の力を大きくしていく正念場とも言えます。新執行部は、気を引き締めて、引き続き都高教運動の前進のために全力をあげる決意です。

退職者会の皆様にも様々ご協力・ご支援いただくこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

原発をつくったから言える原発の本当の恐ろしさ

講師 小倉 志郎さん 元原発技術者

講師 小倉志郎さんのプロフィール

慶大工学部、大学院を経て、日本原子力事業(株)(後に東芝に吸収合併)に入社。35年間にわたり、原発の設計、施工、メンテナンス、社員研修などに従事。退職後も国会事故調調査員、原子力市民委員会などの活動をつづけ、東電とも幾度も交渉。「コストリカに学び平和をつくる会」世話人なども務める。

著書「元原発技術者が伝えたい本当の怖さ」(彩流社2014年)

紙芝居

(自作の紙芝居を使いながら)これは、目に見えないくらい小さな世界のお話です。みんなの体は何からできているのでしょうか。とても小さな、数えきれないくらいたくさんの細胞からできています。でも、この細胞はお母さんのお腹の中で最初は1個の細胞でした。それがおギャーと生まれる時には数えきれないくらいたくさんの細胞になっています。それが不思議なことに目や耳になるのですが、それは、細胞の中にお父さんとお母さんからもらったお手紙を持っているからです。このお手紙をDNAといいます。そして、DNAは放射線で壊されます。放射線は、原子力発電所からたくさん出ています。どうしたらいいか、みんなで考えましょう。



原子力発電所の概要

(柏崎刈羽の全景写真)

この写真は、東電柏崎刈羽原発の写真です。全部で原子炉が7基あります。私はここに3年間駐在して、1号機の建設に携わりました。

(原発の構造の概念図)

これは福島の2号機の設計をしているときに、流体工学という雑誌に使った挿絵です。一見複雑そうに見えますが、このピンクの部分が原子炉で、右側が蒸気タービン。ここが復水器。水が、原子炉とタービンをぐるぐる回ることによって発電します。ここまでは、火力発電所と同じです。では、何が違うかというところ、図の左側、原子炉系がまったく違います。原発の場合には、ここで濃縮ウランを核分裂させて、その熱で蒸気を発生させています。

福島の事故を見てもわかる通り、ウランは原子炉が止まった後も大きな崩壊熱を出します。核分裂を急に止めても、燃料を冷やさないと余熱でメルトダウンしてしまいます。そのため、原子炉の周辺にそれを防ぐための安全系の機器がたくさんあります。普通の発電所にはこれはありません。通常の火力発電所は、燃料を止めれば熱も止まります。この、非常用の安全系を動かすには、非常用のディーゼル発電機やそれを動かす燃料タンクなども必要になります。とても複雑な仕組みになっているわけです。

(炉心の概念図)

これが炉心です。ここで核分裂が起きると、水が下から循環してきて、最初は水で途中からぶくぶく沸騰するわけですが、いわゆる二相流(注 液体と気体がまじりあった流体のこと)になっています。原子

炉の上には蒸気と水を分けるセパレータという装置があります。より分けられた水は下に戻り、蒸気はさらに小さな水滴を除去するドライヤを経由します。小さな水滴でも音速くらいでタービンにぶつくとダメージがあります。

(燃料棒の概念図)

これが燃料棒です。燃料集合体を覆っている青い部分は、下から入った冷却水が外に逃げないようにするパイプです。燃料棒の中には、直径 1 センチの二酸化ウランのペレットが入っています。これを 4 サイクルくらい運転すると、使用済み燃料ということになって、取り出します。それを、使用済み燃料プールに何年か入れて、運べる温度まで下げます。

(Mark I と Mark II の図)

これが Mark I の建屋です。こちらは Mark II で、格納容器の形が違います。Mark I にはドーナツ型の圧力抑制プールが付いています。

原発の「怖さ」とは

原発が大体わかっていたところ、今日のテーマの原発の本当の怖さというのをお話ししたいと思います。私が入社したときは、ちょうど福島の 1 号機の建設開始の時でした。日本の商業用原発のスタート時点で入社したということです。今や、日本の原子力産業は臨終間近い状態です。東電だって、本当は終わっています。原発のサイクルと僕の人生が重なっちゃってる感じがします。(笑)

僕は、原発の危険性という言葉ではなくて、「怖さ」と言っています。田中規制委員会委員長は、「審査は基準に適合するかどうかを見ている。安全であるとは言わない」とぬけぬけと言いました。今回、女川が規制基準に合格したとか言っていますが、あれは何ら安全性を確認したことにはなりません。しかし、報道を見ると安全性が確認されたかのような話になっています。そもそも、原発には何をもって安全というのかという基準がありません。基準がないのなら、人間の「怖い」という感覚で行ったらどうかということです。皆さんは、原発は怖いと思いますか？(全員こわい)では、他の人に「私はこういう理由で怖いのだ」、と説明

できる人。数人に減りましたね。怖いと思っているのに、周りに説明できない人が多い・・・私が呼ばれた理由がわかりました。(笑)

怖さの理由をお話しします。さっきの紙芝居の中にヒントがあります。放射線が遺伝子を傷つける、お腹の中で赤ちゃんの時にもその影響はある。放射線の影響はそれだけではありません。例えば、免疫。放射線を浴びると、免疫機能が低下します。そうすると、普通の病気も増えてしまいます。こう考えると、放射線の影響というのは形が決まられません。ありとあらゆる形の病気がありうるということです。

それでは、どれくらいの被ばくをするとどれくらいの影響があるのか。これがまたわからないのです。福島の事故までは一応権威があると言われている ICRP が年間 1 ミリシーベルトを超えないようにという基準に準拠してきましたが、では 1 ミリシーベルト以下なら何もないのか。そうではありません。放射線にはしきい値がない、1 ミリ以下のゼロに向かって少ない線量でも、それなりの影響があることを ICRP も認めています。

原発内の被ばく防備体制

もう一つ大事なものは、被ばくには 2 種類あるということです。ひとつは外部被ばく。線源が外にあって、外から放射線があたる。もう一つは内部被ばく。体内に線源がある状態です。

私の経験で言うと、会社に入社するとすぐに放射線管理手帳というのを渡されます。管理区域で働くときには、継続してこの手帳を使うということになります。原子炉建屋に入る時には、まず普通の作業着を着ていくわけですが、まずそこで着替えて中に入ります。ここは外部被ばくの可能性があるところ。この作業服は青です。

そこから汚染管理区域に入る時には、放射性的の

ホコリだのが飛んでいるところですから、今度は内部被ばくの可能性があります。さらにもう一回着替えをします。赤い作業服で、上から下までつなぎで頭まで覆い、全面マスクをして幅広のシールテープで完全に防護をします。手袋も、薄い綿の手袋の上にゴムの手袋を 2 重にして、その上に作業用の軍手をします。手は、汚染物質に直接接触れますから 4 重に手袋をするわけです。

再循環ポンプの作業などの時には、その周囲にビニールの部屋を作って中の気圧を下げて、ポンプ内のものが外に出ないようにします。中は汚染されていますが、クリーンハウスという名前です。

(笑) ポンプの分解の時などは、床から何から全部養生して作業をします。コンクリートの床が汚染されるとその除染は大変なのです。作業現場の除染というのは、今の福島などとは違って、汚染前の状態まで、ということはバックグラウンドになるまで除染します。大変な手間です。見たところはきれいなのですが、そこを作業員がさらに一生懸命拭き掃除をするのです。一番汚染する場

二重の意味で怖い内部被ばく

チリなんかを吸い込んだり、素肌に放射性の水がついて毛穴から入ったりして、体内に放射性物質が入るのを、なぜそんなに厳しく防ごうとするのか。それは、一度体内に放射性物質を取り込んでしまうと、被ばくを防ぎようがないからです。

外部被ばくなら、放射線を遮蔽をする、線源から距離を置く、被曝する時間を短くする、という3つの方法があります。しかし、体の中に取り入れるとどれもできません。一生被ばくし続けることとなります。さらに、内部被ばくは測れません。外部被ばくは線量計を胸のところに下げれば、放射線が前からくるか後ろからくるかというような問題はありますが、測定はできる。

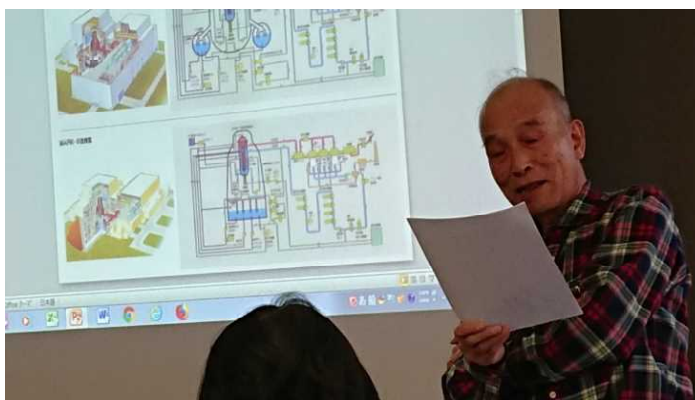
α 線は、紙一枚で止まります。ベータ線も木の板くらいで止まります。もちろん筋肉でも止まります。そのため、アルファ線、ベータ線の内部被

所である原子炉建屋の中も、外部と同じようにきれいにするわけです。

国会事故調の委員になった後で、福島の視察に行きました。敷地の中は汚れ放題で、メルトダウンしていない5、6号機の中の方がきれいな状態でした。そこに入る時には、着ていて汚れたものを脱いで入るといふ、自分たちが働いていた時とは全く逆転してしまうんです。

ばくは測れない。だから怖いのです。

よくホールボディカウンタで内部被ばくを計っているかのような映像を見たことがあるかと思います。しかし、それは誤解です。ガンマ線は体外に出てきますから、ガンマ線で計った内部被ばくの量は分かります。ですから現場に入る前と出た後に測って数値に差があれば、少なくとも放射性物質を何か内部に取り込んだか、ということは分かります。しかし、どれだけ取り込んだかという量はわかりません。では何で測っているのかというと、それはその現場の放射線管理の徹底度を見るためです。数値に差がよく出る作業現場は、放射線管理が甘いと言うことになる訳です。内部被ばくの状況は本当のところわかりません。だからいちばん恐ろしいわけです。



内部被ばくの恐ろしさが隠蔽されている

今、文部科学省が放射線副読本というのを全生徒に配っています。そこになんて書いてあるかというと、外部被ばくも内部被ばくも線量が同じなら同じです、と書いてあります。まったくおかしい。そもそも、内部被ばくの線量なんて測れないんだから。これはまったくの間違いを子供たちに教えていることとなります。

今、シーベルトという単位を使っていますね。あれはインチキなんです。1キロの物体にどれくらいのエネルギーが吸収されたか、というような仮定をしてシーベルトと言っているのですが、

その中には内部被ばくも含まれてると言っているのです。そんなことはないんです。だって、そもそも測れないんだから。

シーベルトという単位は、1986年のチェルノブイリの事故後に、多くの人間が放射能の汚染状況で暮らさねばならなくなった後、ICRPが世界に押し付けたものです。悲しいかな、世界中で使われているので、それを使わないと議論ができない。福島で、年間20ミリシーベルト以下で帰らなさいと言われていて、一方に、1ミリ以下にしろという議論もありますが、それ

も本質をついていません。内部被ばくを考えれば、1ミリだって恐ろしいわけです。

私の感覚では、福島の浜通りだけではなく、中通りも人の住む環境ではないと思います。原発の中での作業の仕方からすれば、あんなことは許さ

強硬な脱原発となった原点

私が強硬な脱原発になったのは、2008年の秋に2冊の論文をプレゼントされたことです。アメリカの医師が作った論文を翻訳したもので、「死に至る虚構」(肥田舜太郎、斉藤紀著)と「放射線の衝撃」(肥田舜太郎著)という2冊の本です。「死に至る虚構」は、アメリカの核実験場や原発の半径100マイルとその外側ではいろんな病気の発病率が全然違う、ということが書いてあります。アメリカ政府はこれを認めず、調査をした人は職を奪われた。これを読んで、世界中の

怖いという感覚を信じよう

怖さというのは客観的な尺度がないのですが、その代わりにひとりひとり感覚があると思います。いろんな講演会とか報道を見ていると、日本では誰か権威ある人が示してくれるんじゃないかという待ちの姿勢が多いように感じます。

長崎大学の教授が、放射線にあたってにもここにこしてれば健康だとか言って福島県内を講演して回っていました。これは全然バカにできないんです。この講演に感動して、文字起こしして送ってくれた知り合いがいます。こんなものに騙されて

質問に答えて

【質問1】事故前に原発を見学した時に、一次冷却水は高濃度だけど完全密封されているから問題ないと説明を受けたが、圧力もあるし外に出るのではないのか。どれくらい追加給水するかかわらないか

＜小倉＞前提として、原子炉の中の水は高濃度の汚染水ではない。被覆管が破れないかぎり、原

【質問2】福島では汚染された水が大量に滞留しており、これ以上保管できないので海に廃棄しようという話が出ている。その場合、核除去装置で除去できないトリチウムが排出されることになるが、一方で原発は普段からたくさんのトリチウムを排出しながら運転しているのだから問題ない、という主張もあるが、どうか？

＜小倉＞トリチウムは、普段から原発が出していることそのものが危険。原発周辺でのいろんな病気の発病率が高くなっている。トリチウムは、化学

れないと思います。私たちが全面マスクでやった作業環境と同じです。100万人を超える人が、内部被ばく環境に置かれている。栃木も松戸にもそういうところはあるし、富士山のキノコ、霞ヶ浦の魚、みんな内部被ばくを起こします。

原発を今すぐ停止しなければならないと思いました。

アメリカでは、核実験や各工場の事故による低レベル放射線で、いろんな病気が増えている。肥田舜太郎さんと鎌仲ひとみさんの「内部被ばくの脅威」(ちくま新書 2005年)に書いてありますが、女性の乳がんの死亡率が3倍になっている。この2冊の本で、原発の怖さを思い知らされました。

はいけません。副読本なんかには騙されないで、自分の中の怖いという感覚を信じてください。だって、客観的な基準はないんですもの。

怖いと思ったけれども説明できないという人も、自信をもってください。だって、怖いんだもの。怖いと思ったから原発やめろで、全くおかしくないんです。御用学者は本当にいい加減なことを堂々と言っています。そういうのを許してはいけません。

子炉の中の水は高レベルの汚染水ではない。ただし、被覆管に穴が開いたりメルトダウンすればペレットの中の核分裂物質が外に出るので、猛烈な高レベルの汚染水になる。また、水に不純物が混じっているとそれに中性子が当たって放射能になることがあるので、原発の冷却水は不純物をととも嫌う。

的には水素だが、中性子が二つ追加。化学的な特性は水素と同じなので、体を作る材料になっているが、トリチウムはベータ線を出してヘリウム原子に代わり、安定的で化学結合しないので、ほかの元素と結合して体組成になることができない。せつかく取り込んだ水素がこぼれていく形になる。本当は、もう影響しているわけで。他で出してるからいいということにはならない。

＜フロアから意見＞細野豪志は海洋に流せといっている。流さないと、原発そのものが運転できな

いわけだから。

＜小倉＞だから、事故を起こす起こさないにかか

【質問3】シーベルトもトリチウムもそうだが、非常にご都合主義だ。

核燃料の廃棄物そのものの処理方法が決まっていない。ガラス固化して 300 万年とかひどい話だと思うが、ガラス固化をすると体積が減るという話なのだが、その辺はどうなのか。福島事故が起きる前から、原発で配管にピンホールというような記事を見ていたが、今はそういう事故はあるのか。制御棒が下から上がってくるわけだが、隙間はどれくらいあるのか。ちゃんと上がるものなのか。

＜小倉＞体積が減るから良いというのは嘘だと思う。ガラス固化体を作ると、ほかにもいろいろ汚染物が出る。全体とすれば、処理すればするだけ、放射性のゴミも増える。基本的には放射能そのものは減らない。体積を減らせば高レベルになる。

ピンホールについては、燃料被覆管に穴とかク

【質問4】福島に行ってフレコンバッグの移動作業を見たが、作業者はマスクをしてるくらいであれで大丈夫なのかと思った。フレコンバッグは、置いておいた方がいいのか、中間処理施設に持って行った方がいいのか。

＜小倉＞本当は、除染作業は無駄。居住地域だけ除染しても、7～8割は除染していない。風が吹いたり雨が降ればまた汚染される。フレコンバッグに詰めて集めたこと自体が無駄。動かすと、また被ばくする。福島の人には怒られるが、福島は「失われた国土」と考えるべき。富岡町は戻った人が8年半たって7、8%。年寄りだけ。子供も生まれないから、加速度的に人口は減っていく。家族は離れて所々で父だけ仕事に行くというパターンもあるが、それは長続きしない。今残っている核種は、半減期の長いものばかりでこれからは減らない。一番大きいのは森林。チェルノブイリでも、除染は3年くらいでやめたと聞いている。人口密度が違うので、同じようにはいかな

【質問5】1号機の補助電源が地下にあったのはなぜか。事故があって制御棒が下りても、熱は出続けるから冷却をしなければならない。事故後に冷却電源がなくなるというような基本的なことが見落とされていたのはなぜ？

今ある原発で、事故が起こった時に補助電源が水につかるようなところがあるのか。

＜小倉＞低いところに非常用発電機を置いたのは、

わらず、原発は全部止めなくてはいけない。

ラックができると核分裂性生成物が漏れたり、放射性のガスが出てくる。被覆管は非常に大事な隔壁だが、難しい特性を要求される。まず水に熱を伝えるという役割も持っており、同時に強度も持たせたい。もう一つは、核分裂を進めるために中性子を吸収しないという条件もある。これを全部かなえるのはきわめて難しい。強度を出すには厚さが必要だが、熱を伝えるためには、薄く薄くしたいわけだし。現場にいと、タービン系の線量が上がって、これはピンホールじゃないかというので場所を探すのだが、これはとても難しかった。

制御棒のことだが、炉心の上下には格子板があって、一つの格子の中に4体の集合体が入っている。その隙間に制御棒を入れるので、一応入ることになっている。地震の時にどうかとか、実験もやっているが。

いだろうが。今の政府は、本当の怖さを隠す方向で進めている。

最後に言いたいのは、原発事故は科学技術の問題、健康・医学の問題ではあるのだが、最終的には政治の問題。政権交代しない限り、正しい方向には動かない。政権を変えないと、原発事故は解決に向かわないとこの秋、初めて言った。東京電力に対しても原子力規制庁に対しても、どんな正論をいっても聞く耳を持たない。裁判官でさえ付度して正論が通じない。今日一番言いたいのはそこだ。

福島の事故はまだ終わっていない。後処理ではない。いまだに新しい被ばくが増えている。福島だけでなく、関東でも。復興だとか後始末という言葉が出るが、そうではない。事故進行中だ。主権者は私たちだから、政治を変える権利があるのです。安倍の顔は、私たちの鏡。安倍が悪い、菅が悪い、と言っていてもしようがない。私たちが変わらなくては。

基本設計が間違っていたということだろう。1号機を東電がGEから買う時に、実は値段をたたいている。オーダーメイドではなくて、アメリカの設計をそのまま持ってきた。アメリカは津波は全くやっていたいなかった。自分は建屋の中のポンプをやっ

たのもあって、定年間際に海水ポンプまで見るようになって、東電から津波の話が来たことを覚え

ている。

心配は現在でもまだある。低いところに置いてあるのもある。ディーゼル発電機は非常に巨大で重く、建屋の上の方に置くと振動で床が壊れる。

〔質問6〕原発は地球温暖化にいいというのが言われているが、そこはどうか？

〈小倉〉ウラン鉱山から始まって、燃料の精製、加工するまでの電力は使うが、それが全CO₂の中でどれくらいの割合になるのかはわからない。世界的な気候変動と、人工的なCO₂の排出との関係はいろんな議論がある。私は、人為説にはどちら

〔質問7〕福島の後始末はどのくらい続くと考えるか。

〈小倉〉フィンランドのオンカロ処分場の映画がある。2億年動いてないという深い岩盤に穴をあけて、10万年保管するといっている。環境にばら

高台の別の建屋に置くというような配慮をすれば、できないことはないが。一番下の岩盤についているところに置かないと、あの振動に耐えるのは難しいかもしれない。

かという反対。年輪考古学の成果によれば、地球の温暖化は70年周期くらいで起きているし、縄文時代の貝塚の調査でも大昔は水位が高かったという証拠がある。温暖化は昔にもあったということでしょう。産業革命以降の人為と、自然のサイクルとの関係はわからない、というのが僕の立場だが、調査、研究を進める必要がある。

まいていなくても、10万年後の心配をしている。福島はすでに大量の放射能をばらまいている。おそらく、人類が生存する限り事故の影響は続く。元通りには絶対ならない。



『放射線副読本』 書かれていないことと巧妙なごまかし

後藤 康彦

文科省が 2018 年 9 月に全国の小中高校生向けに「放射線副読本」の再改訂版を作りましたが、大切なことが書かれていません、巧妙なごまかしの酷い内容の副読本です。文科省は何故このような副読本を作成したのでしょうか。「放射線副読本」が辿ってきた道とその内容について検討してみます。

1. 「放射線副読本」が辿ってきた道

①福島原発事故で「原発安全神話」が崩壊した

2011年福島第一原発事故までは、電力会社、政府など「原子カムラ」が国民に「原発安全神話」を振りまいて原発を推進してきました。文科省は小中高校生向けに「原発副読本」を作成して子どもたちを洗脳してきたのです。文科省や経産省の受託事業・税金を使い原子力文化振興財団は「原発副読本」などの小中高校生・教職員向けの資料を作成してきました。

しかし、福島第一原発事故は「原発安全神話」を吹き飛ばし、文科省は「原発副読本」を廃止せざるを得なくなりました。「原子カムラ」は原発事故後一時息をひそめていましたが、すぐに、放射線教育に活路を見出そうとしてきました。

②原子カムラと原発の「復活」のカギを握る「放射線安全神話」

なぜ、文科省は「放射線副読本」を作成したのでしょうか？「原子カムラ」は「原発安全神話」が破綻したために生き残りをかけて「放射線安全神話」を子供たちに植え付けようとしています。

その狙いは、長期的には原発を復権させること、短期的には「100 ミリシーベルトの放射線は危険ではない」、「放射線量が 20 ミリシーベルト以下になり福島は安全になった」、「避難地域を解除して福島は復興した」、「放射線の危険性を言うのは風評被害を助長する非国民」とのキャンペーンを行うためなのです。そのために「原子カムラ」は必要なことが書かれていない、巧妙なごまかしの「放射線副読本」を作成したのです。彼らは避難している人々を福島に返し、汚染水を海に流し、汚染土壌を減らし、一刻も早く廃炉を完了させて福島原発事故を終わったことにしたいのです。

③「放射線副読本」はどのように変わってきたか

福島第一原発事故を受けて、文科省は今までの「原発副読本」に替えて、小中高校生向けに「知っておきたい放射線のこと」「高校生のための放射線副読本」を 2011 年 10 月に発行しました。福島第一原発事故について本文では全く触れずに、放射線の利用や安全性について強調する内容であり、子どもたちに「放射線は危なくない」という印象を植え付けるものでした。

多くの人々から批判されて、文科省は 2014 年 2 月「中学生・高校生のための放射線副読本」を発行しました。この中では福島第一原発事故の記載はされましたが、福島原発事故により 2000 人を超える関連死など多くの被害の実態には触れていません。更に、放射線の危険性については 2011 年の副読本より後退していました。

復興庁は風評被害払拭のためと称して酷い内容の子ども向け冊子「放射線のホント」を 2017 年月発行しました。2018 年 9 月の「放射線副読本」再改訂版ではこの酷い内容をそのまま引用しています。

④「放射線副読本」削除されたもの書き加えられたもの

「放射線副読本」2018 年版において2014年版から削除されたのは、後藤忍(2019)によれば事故を起こした原発の写真、広域汚染地図、国際原子力事象評価尺度レベル7、放射線の直線しきい値なしモデル、子どもの被ばく感受性、「汚染」という言葉などです。そして、付け加えられたのは「放射線が身の回りにあり、利用されていること」、「放射線の測定機器」、「復興の様子」

などです。その結果、福島原発事故の実態は影を潜め、放射線が危険ではない、福島は復興してきたことが強調される内容になっています。

2. 「放射線副読本」(2018年版)に書かれていないこと

「放射線副読本」の最大の欠陥は「放射線の危険性」は書かれていないことです。まず、「放射線はどこにでもある」と書きはじめ、放射線の利用や利点については詳しく書いてありますが、前書きに「科学的な理解を深める」と記しながら、「放射線の危険性」には触れていません。書かれていないことを具体的に上げてみます。

①放射線の危険性について、特に低線量放射線のがん発生のデータなどに一切触れていません。

例えば、子どもは1ミリシーベルト(mSv)も安全ではないという次のような疫学調査研究もあります。

・スイスの16歳未満の子ども209万人の調査では自然放射線累積1mSvにより全がんは2.8%増加し、脳腫瘍は4%増加しました。(Spycherら:2015)

・オーストラリアの20歳未満の68万人の調査ではCT検査で1mSvあたりで2.3%増加しました。(Mathews:2013)

②甲状腺がんの増加はもちろんのこと放射能の健康被害については一切触れていません。

福島県の子どもたちに甲状腺がんが多発していること、死産などが増えていること、呼吸器、循環器などの病気が増えていることなど全く書かれていません。

③避難している多くの人びとが苦勞していること、帰還している人の多くは高齢者であり、子どもや若い人は帰還していない現実など人々の苦悩にほとんど触れていません。

④「外部被ばくも内部被ばくも健康への影響の大きさは同等」と書いていますが、内部被ばくの危険性に触れていません。生物は30数億年の進化の過程でカリウムなど自然放射能と共存しながら生存してきました。最近100年ほどの間にヒトが作り出した人工放射能は生物が初めて出会う毒物です。人工放射能の中には生物濃縮すること、ヒトの特定の器官組織に蓄積すること、セシウムボールの様な放射性微粒子の内部被ばくの危険性などについて無視しています。

⑤たまり続けている汚染水の中のトリチウムの危険性について書かれていません。原発や再処理工場の周辺ではがん発生が増加し、トリチウムの影響と考えられています。トリチウムはエネルギーが弱く空気中では5mmしか飛びません。外部被ばくより内部被ばくが問題になります。化学的性質は水と同じためにDNAや蛋白質などの有機物に取り込まれ長期間内部被ばくをします。半減期は12.3年でヘリウムになります。DNAに取り込まれたトリチウムは不活性ガスのヘリウムに変化し、そのためにDNAが切断されます。その他にも大量の汚染土壌の処理、廃炉の問題なども書かれていません。

⑥自然放射線や医療放射線による被ばく線量は書かれていますがその危険性は書かれていません。日本では医療被ばくが多いこと、その医療被ばくによるがん発生の危険性が高いこと、また医療被ばくのリスクと利益のトレードオフにも触れていません。

⑦福島原発事故により多くの労働者が被ばくしていること、多くの労働者ががんになり労災認定されていること、廃炉や除染を行う労働者のことなどに一切触れていません。

3. 巧妙なごまかしと事実を歪曲して書いていること

文科省は、子どもたちを洗脳し「放射線は危険でない」ことにするために「放射線副読本」を作成しました。しかし、官僚は明確な誤りを書くことはできませんし、責任も取りたくありません。そのために都合の悪いことは書かないことを基本に、問題点をすり替えたり、別のデータを用いて言い逃れをしたりしました。

その巧妙な手口とごまかしを以下に纏めてみました。

- ①「放出された放射性物質はチェルノブイリ原発事故の約7分の1であり」と書いてあります。しかし、大気中に放出された放射エネルギーは放射性希ガスを含めればチェルノブイリ原発事故よりも多くなります。さらに、海水や汚染水として放出された量を含めれば福島原発事故の方が2倍ほど多くなります（山田、渡辺2018年）。7分の1という数字は放射性物質の総排出量を比較したものではありません。希ガスは無害として処理するなど放射性物質の人体への影響を評価するために換算した排出値なのです。セシウムの大気中への排出量を比較してもチェルノブイリ事故と同じくらいです。7分の1というのは全く恣意的で、福島原発事故を小さく見せたいという数字なのです。
- ②「日本の食品の放射能基準は世界で最も厳しい」というために、日本は平常時の低い基準のデータを用い、外国は緊急時の高い基準のデータを用いて比較しています。異なる基準のデータを比較してはいけません。
- ③放射線の発がんが少ないことを印象付けるために、野菜不足や食塩の取りすぎの発がんと比較していました。がんセンターの調査でも野菜不足と発がんの関係は実証されていません。放射線と食塩の過剰摂取という発がん期間の異なる年数のものを同じ表に載せて比較していますがデータの取り方の基本としてやってはいけません。また、避けることが出来ない原発事故による放射線被ばくと自分の努力で避けることが可能な塩分の取り過ぎを比較することは無意味です。放射線の発がんリスクの数値も低すぎる数値を用いています。
- ④「100 ミリシーベルト (mSv) 以下の放射線の相対リスクは検出困難」としていますが、ICRPも採用している「直線しきい値なしモデル」では100 mSv以下でも発がん死のリスクがあります。国や県は避難者の帰還政策で20mSv以下になったからと帰還させています。しかし、放射線管理区域の年間被ばく線量5.2mSvよりも高い20mSvは危険な線量なのです。安全の為には一般人の被ばく線量限度年間1mSvは守るべき基準です。2の①に示したように1mSvでも安全ではないのです。
- ⑤「県民等に、今回の事故後4か月間において体の外から受けた放射線による健康被害があるとは考えにくい」と書かれていますが、放射線量が圧倒的に多い初期被ばく線量は全く測定されていません。初期被ばく線量が非常に多量であった可能性もあります。
- ⑥「福島県がH30年4月実施した内部被ばく検査によれば、健康に影響が及ぶ数値ではなかった」と書いてあります。しかし、福島県が行ったホールボディカウンター検査は2011年9月から始められており、この時点で甲状腺がんを引き起こす半減期が8日のヨウ素131はすでに消滅しています。また、初期の内部被ばくについて一切触れていません。
- ⑦「原爆被爆生存者や小児がん治療生存者から生まれた子供たちを対象とした調査においては、人が放射線を受けた影響が、その人の子供に伝わるという遺伝性影響を示す根拠はこれまで報告されていません。」と書いてあり、あたかも放射線の影響が遺伝しないように読み取れます。しかし、湾岸戦争などの劣化ウラン弾の影響により米軍兵士の子どもやイラクの子どもたちに先天性異常が見つかっています。ICRPの2007年勧告でも集団被ばく線量1万人・Sv当たり4人の遺伝的影響があると認めています。「原爆被爆生存者や小児がん治療生存者の調査」ではまだ見つかっていないだけのことであり、上記の様に他の調査では見つかっています。巧妙なウソです。
- ⑧「福島県が実施した妊産婦に関する調査によれば、震災後、福島県内における先天性異常の発生率など、全国的な統計や一般に報告されているデータと差がない」と書かれています。全国と福島県の調査では方法が異なり、「差がない」というには科学的な要件を満たしていません。

きちんとした疫学調査もあります。ハーゲン・シュアブ、森国悦、林敬次ら(2017)の報告によれば、福島原発事故後10か月経過後より周産期死亡（妊娠満22週以後の死産に生後7日未満の死亡を加えたもの）が福島県と近隣5県で15.6%も上昇し、他の地域よりも高くなりました。この事実が副読本の偽りを示しています。

⑨「福島県内の空間線量率は国内や海外の主要都市とほぼ同水準になっています」と書いてあります。

福島市の2018年度の放射線量0.15マイクロシーベルト/時(μ Sv/h)は原発事故前の0.04 μ Sv/hと比較しても十分に高い値です。しかも、この福島市の測定値は除染を行いコンクリートの土台の上に設置したモニタリングポストの値です。林などではこれより高くなり、同じページの「事故後の空気中の放射線量の変化」のH29年度の図では福島市付近の放射線量は0.2-0.5 μ Sv/hと高くなっています。

4. ウソと過ちに満ちた「放射線副読本」を子どもたちに読ませたくない

文科省の放射線副読本は小中高校生に「放射線は安全である」と刷り込み、長期的には原発と核を受け入れさせ、短期的には20ミリシーベルト以下の被災地に帰還させ、甲状腺がんの発生原因を隠ぺいし、トリチウム汚染水を海に投棄し、汚染土壌を道路や堤防に使用することを目指すためのものなのです。今まで見てきたように全く科学的な内容ではありません。

このような内容の「放射線副読本」が全国の小中高校で配布され、使用されているのを黙って見ていることはできません。是非とも、このような「放射線副読本」を廃止させましょう。

参考資料

- ・青谷知己、小倉志郎、草野秀一、後藤政志、後藤康彦、山際正道「原発は日本を滅ぼす」緑風出版 2020年
- ・後藤忍「紙面が”除染“された放射線副読本」科学2019 Vol.89 No6 岩波書店
- ・山田耕作、渡辺悦司「中学生、高校生のための放射線副読本」の問題点2018年
http://www.torikaesu.net/data/20181201_yamada_watanabe.pdf

地公退「憲法学習会」を聞いて

芥川 治子

1月23日に「地公退・自治退合同幹部学習会」が行われた。テーマは「安倍改憲を許さない」、講師は学習院大学の青木未帆さん。

安倍首相の、とにかく改憲したいという、ふわふわした不真面目な憲法改正論議に対しては、私たちは「改憲阻止」だけではなく、その内容についてよく考えてみるのが重要ではないか。

まず、明治開国期から終戦までを振り返ってみると、自由民権運動、「大日本帝国憲法」成立、1918年曲がりなりにも政党内閣(原敬)が成立。1931年満州事変、軍部の発言力が高まり、1936年2・26事件：軍部大臣現役武官制復活、1937年日華事変、1940年政党解体、大政翼賛会の成立＝議会政治の終焉。権力の統制という点で見ると、権力の代名詞である軍事を、通常政治(「国務」)が制御できなかった事実＝まず軍隊があり、その下で憲法が作

られたため、天皇の「統帥権」がタッチできない領域としてあった。実力組織をどうコントロールするか、という問題は脈々として今に通じている。

現在、国際法では武力行使は違法とされていて、「自衛措置」のみ許されている。各国には手前勝手な理由で国際法の抜け道を作らないことが求められている。日本は、憲法第9条のもとで、「集団的自衛権を行使できない」「敵基地攻撃能力を持ってない」「攻撃型空母は持ってない」「行政機関の一つとしての自衛隊」が重要だった。国際法の「自衛措置のみ」を、より厳しく守る政策をとってきたといえる。それが2014年以降、集団的自衛権、米艦防護、有志連合など、許されないあり様に到達しているのではないか。

「日米安保条約」(日米同盟)は「憲法番外地」といわれている。現在では「日米同盟のグ

ローバルな性質」を強調し、平時から有事に切れ目なく連絡をとる、インド太平洋を越えた地球規模での活動範囲とする、に至っている。これは憲法に定められている条約の改定手続き＝国会承認を経ずに、実質的な改定をしているのと同じである。

問題は、日米安保条約・地位協定を論ずることなく改憲を語りうるのか、「統帥権の独立」問題と相似しているのではないか。日米地位協

定を改定できない日本に集団的自衛権の行使に踏み出すことはできるのか、である。

憲法改正を「阻止」しても 2014 年に戻らなければ意味がない。「軍事はやめましょう」「もう二度と戦争は許さない」というだけではだめだ。道徳・倫理の側面からも、もっと議論を深め、直球で平和を語る議論を前面に出していくことが求められている。

<お話を聞いて>

現在、世界の多くの場所で武力行使によりたくさんの人々が殺され、苦しめられている。そして軍縮どころか国家による軍備拡張、武器・兵器の先鋭化、量産化が進められている。混迷し、リスクが増大している世界の中で、私たちはどうするのか真剣に考えなくてはならない。私たちのとるべき道を議論する中で、日本国憲法の問題も「憲法番外地」の問題もはっきり見えてくるのではないかと思う。

伊藤詩織さんの民事裁判を傍聴して

本村 富美子

去年 12 月、レイプ被害を訴えた伊藤詩織さんの民事裁判の判決が出ました。裁判長は詩織さんの請求を認め、加害者の不法行為と詩織さんが被害を公表したのは公益目的であると認定しました

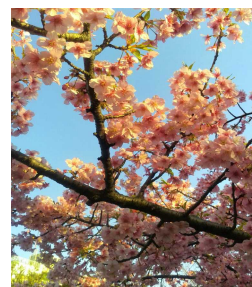
私は伊藤詩織さんの「2015 年 4 月、安倍首相のお友達だった元 TBS 記者山口氏からレイプ被害を受けた」という告発を聞いた時から、この裁判に注目し、支援していました。なぜならレイプ被害者が、顔をさらし、しかも権力に近い加害者を告発することが、どれほど辛く、困難なことかと感じていたからです。案の定、彼女は脅迫やバッシングを受け、日本にいられなくなりましたが、それでも闘い続けました。

一方加害者は、菅官房長官の秘書官だった中村警察庁刑事部長の圧力により、逮捕も免れ、起訴もされませんでした。その経過は詩織さん

には何も知らされず、全てが闇の中（ブラックボックス）でした。

裁判の証人尋問の時、詩織さんは加害者弁護士から、酷い 2 次被害を受けましたが、一貫した供述をしました。しかし加害者の供述は変遷し、あいまいでした。

勝訴判決の後、彼女は、傍聴席に向かって深々と頭を下げ、退廷しました。私はその時涙が止まりませんでした。ここまでの彼女のがんばりに対する敬意と司法の良心ともいえる結果が本当に嬉しかったのです。詩織さんを支える集会には何度か参加しましたが、穏やかで女性の連帯感に満ちたものでした。様々なバッシングや中傷を受けてきた彼女が「マイナスの言葉や中傷はポジティブな言葉で埋めていこう！」と言ったことが心に残りました。まだ控訴審もありますが、支援していこうと思います。



2020年春 社会保障の動向

平岡 良久

「モリカケ問題」「日報隠し」「桜を見る会」で露呈する「嘘」「隠ぺい」「捏造」に表れる安倍政権による政治の私物化、「IR」汚職事件等この国の劣化が留まるところを知りません。とりわけ「桜を見る会」「前夜祭」での安倍首相の脱法行為が明確になりました。新型コロナウイルスへの対応にしくじった安倍政権は、私権を制限する「緊急事態宣言」を可能にする「新型インフルエンザ等対策特別措置法改正案」を導入しています。

社会保障について現状と今期の課題は以下の通りです。

現201通常国会では、年金関連法案と雇用関連法案が提案される予定になっています。その他は、今年の夏の全世代型社会保障検討会議最終報告を受けて、秋の臨時国会に提案される予定になっています。

①「後期高齢者医療窓口負担1割を2割に引き上げ」は、基準は維持しつつ3割との間に2割を新設することを検討しています。「介護保険利用者負担1割を2割に引き上げ」については、基準を維持しつつ2割・3割の内容を検討しています。

②年金制度について、今国会で改正されるのは、「短時間労働者に対する厚生年金保険及び健康保険の適用範囲の拡大」です。適用範囲の企業規模要件は、「2022年10月に100人超、2024年の51人超」になり、今国会に提案されます。

③介護保険制度では、「利用者負担の見直し(基準2割化、または2・3負担者範囲拡大)」は、「高額介護費の負担上の上限引き上げ」と形を変えて、「補足給付の要件見直し(該当する預貯金額《現在個人1000万円以下》の引き下げ)」については、「補足給付適用範囲の縮小」となり、全世代型社会保障検討会議での検討になります。

④医療保険制度の「75歳以上の窓口負担割合を70～74歳時と同じ2割にする」と、「紹介状なしの大病院受診時自己負担額増」などについては、夏の全世代型社会保障検討会議最終報告を経て医療保険審議会審議となり、法案は20年秋の臨時国会に提案される予定です。

⑤4月から年金が0.2%引き上げられます。

【2020年度の新規裁定者(67歳以下)の年金額の例】

	2019年度(月額)	2020年度(月額)
国民年金 (老齢基礎年金(満額):1人分)	65,008円	65,141円 (+133円)
厚生年金 (夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額)	220,266円	220,724円 (+458円)

※平均的な収入(平均標準報酬(賞与を含め月額換算)43.9万円)で40年間就業した場合に受け取り始める年金(老齢厚生年金と2人分の老齢基礎年金(満額)の給付水準です。

東京「君が代」裁判 10・23通達 体制を打破するため闘い続けます！

近藤 徹（「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会）

都教委が10・23通達（2003年）を発出してから16年6月経ちました。「君が代」斉唱時の不起立などで処分された教職員は延べ483名にのぼります。また、不起立を唯一の理由として退職時に再雇用などを拒否された教職員も70名を超えます。

この間私たちは、裁判と運動を車の両輪として、「日の丸・君が代」強制に反対する職場での取り組みを風化させず、都教委の暴走と正面から対決して闘ってきました。

都高教退職者会の皆さんには、常に物心両面にわたり暖かいご支援を賜り感謝しています。

東京「君が代」裁判（処分取消訴訟）四次訴訟は、最高裁第一小法廷が2019年3月28日、東京都の上告受理申立を不受理とし不起立4回目・5回目に対する減給処分を取り消す一方、原告らの上告を棄却し、上告受理申立を不受理として戒告処分を容認し損害賠償を認めない決定をし、一部勝訴で終結しました。しかし私たちは、四次訴訟を受け継ぎあくまでも10・23通達の違憲判断と戒告を含む全ての処分の取り消しをめざし東京地裁に五次訴訟を提訴すべく準備中です（鈴木毅氏の別稿参照）。

さて、2020年3月、コロナ騒動の中で10・23通達発出から17回目の卒業式がありました。安倍政権が突如、小中学校、高校、特別支援学校の「（春休みまでの）全国一斉休校」を要請し、学校現場が混乱する中、アベ友の小池都知事の下、都教委は全国の自治体に先駆けて3月2日から春休みまでの休校を通達しました。卒業式に関しては「新型コロナウイルスの感染拡大防止のため」と称して「参列者の制限と時間の短縮」を前提に実施するとなりました。

都教委は2月28日、「事務連絡」を発出し、「国歌斉唱」の全都立高校での実施を強制しました。その結果、これまでの式次第にあった校歌斉唱、保護者代表式辞、卒業生代表答辞、在校生代表送辞、式歌（卒業の歌）斉唱、などをカットし、①国歌斉唱、②校長式辞、③卒業証書授与、などに縮小して実施した学校が多くなっています。この期に及んでも何が何でも「君が代」だけは歌わせるという都教委の異常さが際立っています。

10・23通達に基づく東京の命令と処分の教育行政の抜本的転換のためにも、「君が代」強制反対の闘いを風化させず、『日の丸・君が代』強制は戦争への道』という思いを胸に、「子どもたちを戦場に送らない」決意で、決してあきらめることなく粘り強く闘います。

東京「君が代」裁判、五次訴訟提訴へ

鈴木 毅（八王子拓真・定／三部制）

2003年に発出された「10・23通達」が出されてから17年目を迎えています。この間、東京「君が代」裁判は四次訴訟まで進行し、各次訴訟で累積加重による減給・停職処分は全て違法であるとの判決は勝ち取ってきました。しかし裁判所は「裁量権逸脱濫用による違法」を認定するにとどまり、通達自体の違法性を認定してこなかったことから都教委による不当な支配は続いており、次のような問題が生じています。

一つは、「通達」に基づく職務命令体制（サービス事故＝処分を背景とした強権的手法）が教育活動全般に浸透していることです。もはや「通達を知らない世代」が教職員の過半を占めようかという状況の中で、細分化された職階性が実働化し、管理職と主幹ら一部のメンバーで校務運営が企画され、その他の教員は「上司（!）の指示・命令に従うのがあたりまえ」という、絵に描いたような上意下達の構図がどこの職場でも展開するようになっています。職員会議での挙手採決禁止（＝意思決定過程からの排除）は教職員間に「何を言っても無駄」という一種のあきらめ感を蔓延させ、職員会議で校長や都教委に批判的な意見を表明する人もほとんどいなくなっています。このため「都

立高校の良さ」の源泉となっていた「生徒に直接責任を持って教育に取り組む姿勢」や「自由闊達な意見交換」「同僚性」といったものが風前の灯となっています。

二つめは、「日の丸・君が代」問題に対する都教委による不当な攻撃が相変わらず止まず、その攻撃方法が巧妙化していることです。都教委は「戒告は違法とまではいけない」という裁判所の判断を「戒告は適法」と読み替え、不起立者に対する戒告処分の発令（※）を続けており、さらに戒告処分に伴う勤勉手当の減額率を倍増させるなど経済面での制裁のレベルを上げ、被処分者に受講を強制する服務再発防止研修の回数、内容を付加し、従来が減給処分よりも実損や圧迫の大きいものへと質的転換を図ってきています。

また都教委は、判決で減給処分を取消された原告のうち、現職教員全員に対して「処分の出し直し」と称して戒告処分を発令してきました。これは不当な二重懲罰にあたるため、私たちは「再処分」であると抗議し、取消しを求めています。これらの結果、現在、東京都人事委員会では四次訴訟提訴以降の卒入学式不起立による処分と四次訴訟判決以降も出されている再処分に対する不服審査請求事件がいずれも審理中となっています。

現在私たちが提訴に向けて準備を進めている五次訴訟は、これまでの裁判の総決算として、これら2つの事件の請求人らが合同で原告団を組織して法廷闘争を行うことになる予定です。なお提訴に先立って、再処分事件は都人事委員会で公開口頭審理（証人尋問、意見陳述など）を行う準備を進めていますので、開催の折には傍聴支援等をよろしくお願いいたします。

※不起立4回目以降の者には減給処分を発令。ただし四次訴訟で取消判決が出た。

被処分者に再任用打ち切りの事前通告

大能 清子（葛西南・定）

1月20日、異動の中間内示とともに今年も再任用の可否連絡があり、私にも来年度については合格が伝えられました。しかし23日の午後、校長から「ちょっと話があるから来て」の一言。

「懲戒処分歴がある職員に対する事前告知」なるメールを読み上げられました。口頭での伝言のため私にはその真偽を確かめる術もありませんが、校長が読み上げた内容によると、「あなたは、卒業式における職務命令違反のため、平成29年4月に……戒告の処分を受けました。このことを踏まえると、再任用職員としての資質に欠けるものと見受けられます」と前置きし、「公的年金が支給される年度への任期の更新となる際には、懲戒処分を含め、従前の勤務実績等に基づく能力実証を経たうえで採用することになりますので、」私は任期を更新しないと続きます。告知の発信者を訪ねると人事部長とのことでした。非常勤教員選考も採用しない、とはいえこちらは今年度も不合格でした。

納得できないと言おうとすると、校長は「何が言いたいのか？」と言うので、二、三の質問をしました。鹹になるのは何年後か、告知の前に任用打ち切りの決定があるはずだが、それはどの機関で、どの条例もしくは規則、規定に基づいて、どういう基準でなされたのか。私は不起立によって三回処分を受けているが、三年前の処分だけ取り上げられているのはなぜか。

校長は任用打ち切りは三年後であると即答し、私が「それでは年金が支給される前だから、何か月間かは全くの日干しになるということですか？」と訊くと、「そうだねえ」と笑ったものです。他のことはわからないと言うので、「人事部に聞いてください」と言うと、「答えるかなあ」。

約一ヶ月放置され、自己申告書を書かないでいると校長はようやく慌て始め、入試の当日になって三年後と言ったのは四年後の誤りだったと謝罪。その他は「国の方針に沿ってやっているそうです」。やむなく「それは間違いです」と極力丁寧に説明し、再度問い合わせるよう要求しました。その後、分会決議に基づいて職場の仲間が校長交渉で追求してくれました。

驚いたのは、昨年通告をされた同じ被処分者の川村さんが今年も同じ内容の通告を受けたことです。これでは毎年「あなたはあと〇年で雇い止めます」という通告を受け続けることになります。これほどショックな内容を忘れられる人間はいません。それを重ね重ね通告するということが、「諦めて早く身を引け」と言われているようなものです。これはもうパワーハラスメントという他あ

りません。

昨春には、ILO／ユネスコから処分そのものについて根本的な是正を促す勧告も出されました。国際社会は「10.23 通達」を認めてはいないのです。私たちは都教委に対して不当な事前通告と任用打ち切りの撤回を求めるとともに、五次訴訟においてこの事前告知の元となった処分の撤回を求めて闘います。引き続きご支援をお願いします。

再任用更新拒絶裁判報告 東京高裁不当判決糾弾、上告は断念

ご支援ご協力ありがとうございました

「再任用更新拒絶裁判」原告（控訴人）

伊勢俊郎（元向丘） 岩崎義男（元淵江） 小海雄二（元上野）

「再任用更新拒絶裁判の原告を支援する会」

藤野正和（呼びかけ人） 山口正人（呼びかけ人） 杉浦孝雄（事務局）

はじめに

2014年度末、都教委は少なからぬ再任用更新希望者に対して更新を拒絶しました。これに対して5名の該当者が損害賠償を求めて2016年1月、東京地裁に提訴したのが、「再任用更新拒絶裁判」でした。

裁判は都高教、都高教退職者会の全面支援を得て闘われましたが、不当にも東京地裁は2018年7月、請求棄却の判決を出しました。判決は都の「裁量権」を無限定に認めたものであり、このまま見過ごすことはできないと地裁原告のうち3名が高裁提訴に踏み切り、闘いは第2ラウンドを迎えました。

高裁提訴に合わせて「再任用更新拒絶裁判の原告を支援する会」が発足し、署名・カンパ・傍聴などに取り組み、法廷でも地裁段階にも増して鋭い追及が行われて、原告・支援者ともども「逆転勝訴」の期待を抱きましたが、東京高裁は2019年8月、不当にも控訴棄却判決を下しました。

聴く耳も、見る目も、考える頭も捨て去った高裁不当判決

高裁段階での都側の主張は、地裁段階に輪をかけて低劣なもので、地裁判決直後に出された「日の丸・君が代」再雇用拒否裁判の最高裁判決（上告人敗訴）を最大限悪用し、「裁量権」の絶対化を図ってきました。原告・弁護団はこれに対して岡田正則早稲田大学教授の「鑑定意見書」を得て、最高裁判決の事案と「事案を全く異にする」と反撃、高裁判決は一切「最高裁判決」を持ち出せませんでした。

さらに原告・弁護団は攻めに転じ、果敢に合否判定方法の開示を求め、かつての裁判や地裁段階では明らかに切り切れなかった「評価の数値換算の方法」「配点と合格基準」を都側に明らかにさせ、「ブラックボックス」に新たな穴をあけました。

これによって「管理職の面接評価の比重が推薦書評価の二倍の重み」「『もう少し』『採用してもいい』のはずのC評価が付けば即不合格」「Cが致命傷と知らない校長がいる」等々、「不合格」の制度的理不尽さが浮き彫りになったのです。

高裁はこれらの主張を吟味することもなく、すべてを「裁量の逸脱・濫用は認められない」と強弁して、「控訴棄却」と判示したのです。決して納得することはできません。

苦渋の上告断念と今後の闘いへの願い

原告（控訴人）団・弁護団は協議の末、上告断念という苦渋の決断を行いました。決して敗北を認めたのではなく、最高裁が高裁判決を覆すような公正な判断をするという期待が持てないこと、その場合、同種の裁判で勝訴判決が確定した事案の結果を無にする恐れがあることなど、熟慮を重ねた結果です。

敗訴に終わりましたが、この裁判闘争によって「再任用選考」の実態が丸裸にされ、その後の都の選考に対する大きなプレッシャーとなり、不合格者を減少させました。原告、「支援する会」は、この闘いの到達点を生かし、今後の闘いの力にさせていただけることを願ってご報告とします。

※なお、資料が必要な方は事務局杉浦(090-9800-0615)までお問い合わせください。

和気あいあいの2019年東京都退職教職員囲碁大会 ～まだまだ若い～

昨年9月20日(金)、ナールお茶の水(教職員互助組合)で同囲碁大会が開かれた。今年の大会には、都退教協から5名、都高教退職者会から7名の参加があり、和やかな交流の中で、熱いたたかいが繰り広げられました。

	愛甲	大河内	谷	原田	及川	福嶋	石垣	安部
愛甲二段		○	○	×		×	○	×
大河内三段				不敗	○		×	×
谷 三段	×			×	○	×	○	
原田三段	○	不勝	○		○	×		×
及川二段		×	×	×			×	×
福嶋四段	○		○	○			○	×
石垣四段	×	○	×		○	×		
安部無差別	○	○		○	○	○		

大会は、A(無差別)、B(2段～5段)、C(初段以下)の3グループに分かれてたたかわれました。Aグループは今年もエントリーが安部五段お一人でしたので安部さんの優勝を確定し、Bグループに出場してもらい楽しんでいただくことになりました。

左表の通り8人のつわもの棋士がそろったBグループは、夕方4時までを制限時間目途に

*不勝=不戦勝 不敗=不戦敗

して、全員によるリーグ戦で決着をつけることになり、20局に及ぶ熱戦が繰り広げられました。

昼休みをはさんで打ち進められた対局は、5回戦が終了した時点で、福嶋さんが4勝1敗でトップ。時間も残り少なくなりましたので、福嶋さんの優勝が決まりました。

	谷口	佐藤	望月	佐久間
谷口3級		×	×	×
佐藤1級	○		○	不敗
望月初段	○	×		○
佐久間1級	○	不勝	×	

2位は、原田さんと愛甲が3勝2敗で並んでおり、準優勝決定戦を行うことになりました。お二人とも朝から6局目になったが気力を振り絞り熱戦の末逆転で原田さんが勝利を収めました。お疲れ様。

Cグループは、2回戦まで打たれた時点で佐藤さんが2連勝でトップ。この日の開会が大幅に遅れたため佐藤さんが用事のため退席しなければならなくなったので、この時点で佐藤さんの優勝を確定することにしました。準優勝は、3回戦で望月さんが佐久間さんに勝ったので望月さんに決まりました。

文責 愛甲

お知らせ 2020年度・都退職教職員囲碁大会は9月25日(金)に開催予定



東京歴史散歩(麻布界隈を歩く)を終えて

川口 政利

10月の最終土曜日の26日、「東京歴史散歩」は13名の参加を得て無事終了した。そのスタートからゴールまでを振り返ってみたい。

前日、東京は激しい集中豪雨にみまわれたが、予報通り当日の空は晴れ上がり、遠く富士も見えていた。

当日巡ったコースは

有栖川公園→ありすいきいきプラザ→フィンランド大使館→天真寺→安藤記念教会→西町インターナショナルスクール→氷川神社→麻布山善福寺→賢崇寺→懇親会々場「魚可津」

10時に日比谷線広尾駅に集合後有栖川公園へ移動。そこで自己紹介の後、元同僚真中さん作成のプリントに加え、安政時代の地図を添えた資料をお渡しした。

有栖川公園は斜面を上手に利用した緑豊かな都心のオアシスだが、ここを訪れたことのある人は意外に少なかった。公園を一周し、その広さに驚いた方から「どの位の広さですか」と聞かれ、後日に調べると広さ67,000 m²で、東京ドームの5倍もあった。周りには大使館などが多数あり、外国人の子ども達も遊んでいた。

ドイツ大使館公邸を見ながら公園脇の南部坂を上り切る、そこが麻布台地。まずは「ありすいきいきプラザ」を見学。実踏時にここは港区のコミュニティー施設と知り、その建物にも魅了されて、事前に見学をお願いしておいた場所。所長さんから快諾を得ての見学。この日は所長さん自らが案内して下さいました。

“高齢者のリクレーション・学習”や“区民の交流・コミュニティー”の場として集会室や健康トレーニング室などが用意され、浴室やカラオケ施設まで備えられていた。台風19号の時は一時避難所ともなったそうだが、20数名の避難者はゆったり過ごせただろうかと推測できた。羨ましいほどの施設だが、地域間格差を実感する瞬間でもあった。



フィンランド大使館を眺め、天真寺の鐘楼と黒田家墓所を見学の後、安藤記念教会へ。大谷石とステンドグラスが有名なこの教会。大谷石造りの建物を外から眺めながら通り過ぎようすると、何とこの日は内部公開の日。幸運にも2階へ上がり内部からステンドグラスを見ることが出来た。明るい陽射しを通して見るステンドグラスは美しかった。□

当教会の創立者安藤太郎についての面白い話を聞いた。彼は徳川幕府の海軍操練所の生徒となり、榎本武揚に従い函館戦争に参加。敗れて獄に入れられたが、赦免の後明治政府の外務省に勤務。岩倉具視使節団として欧米諸国を訪れた。その後夫人とともに洗礼を受けクリスチャンとなったとか。

安藤記念教会を後にして、アルゼンチン大使館の前を通り、旧松方正熊邸へ。ここは現在、私立学校「西町インターナショナルスクール」となっていて、5歳から15歳の生徒が大正10年に建築された洋館で学んでいる。土曜日とあって生徒の影は見え、外から建物を眺めて引き返した。

麻布地区の総鎮守氷川神社に参拝後仙台坂を下る。途中の右手の韓国大使館には多くの警察官が配置されていてものものしい。昨今の日韓情勢が反映されている雰囲気だ。



坂を下り終えて麻布山善福寺へ。この寺は今回の散歩のハイライトだった。墓所内には福沢諭吉の墓と越路吹雪の歌碑がある。天然記念物の“逆さいちょう”が見事。ここにアメリカの初代公使館が置かれていたことを知った人は少なく、初代大使ハリスの碑の前で記念撮影。

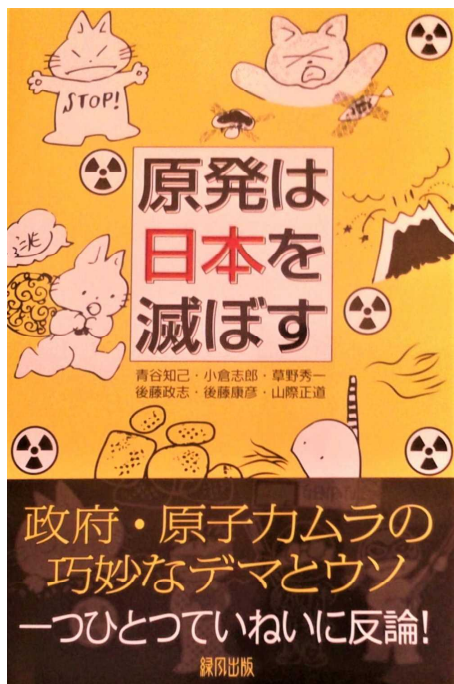
最後にお参りしたのが賢崇寺。入口から続く長い急な階段を見て上るのを躊躇う御仁もいたが、なんとか全員上り切った。ここは鍋島家の菩提寺で歴代藩主が祀られている。

墓所の一番奥に「二十二士之墓」があった。真中さんの説明を聞いて初めて知ったのだが、2・26事件で処刑された将校など22人が眠っているような。国賊として処刑された将校の墓所を引き受ける寺が全くなかった時にこの住職が引き受けてくれたという美談が伝えられている。

懇親会は麻布で有名な和食「魚可津」へ。散策途中から汗かくほど暖かくなったので生ビールは格別に美味しかった。



『原発は日本を滅ぼす』(書評)



私たちの仲間である都高教退職会の会員と元原発技術者らによる、原発の危険性をわかりやすく解説する本が出た。帯にあるように「政府・原子カムの巧妙なデマとウソ」に対する反論になっているのがミソである。全13章からなるタイトルを見るだけで、原発の問題性が明らかになるが、さらに各章に小見出しがつけられているので、非常に読みやすくなっている。以下、各章で注目した点を挙げる。

第1章 「福島原発事故はどのような事故か」

図等を使い、原発の構造から事故の実態を明らかにしようとしている。しかし、一番印象に残ったのは福島第一原発の建屋の中には放射線量が高く、未だに人が立ち入って直接の調査ができていない、つまりいまだに事故の真相わからないということである。それだけでも原発の恐ろしさが伝わってくる。

第2章 「空気も水も土も生物も汚染された」

福島の原発事故によって多量の放射能が排出されたが、日本政府は、チェルノブイリ事故の「1/7」と言い続けてきたが、それは福島の事故を過小評価するための印象操作だという。汚染水の海洋放出についても、汚染土のばらまき(建設材料に使用するという計画)と共に地球環境を汚染し、回りまわって生物や人間に影響を及ぼすことになるという警告している。

第3章 「多くの住民が被曝した」

ここでは住民がないがしろにされている実態に触れる。原発事故による住民の被曝線量に関する調査が不十分ななか、国際基準の20倍にあたる「年間20 mSv」以下の地域に住民が帰還させられている現実がある。1号機が水素爆発した際、100億円以上掛けて作られた SPEEDI (緊急時迅速放射能影響ネットワークシステム) の情報は住民に伝えられなかったにもかかわらず、放射能の拡散状況がシミュレーションされたデータは在日米軍やアメリカ大使館には提供されていたという。

第4章 「労働者の被ばくの上に成り立つ原発」

原発稼働が被ばく労働者を生み出し、事故があると使いずての被ばく労働者を大量に生み出すという過酷な状況が示される。

第5章 「放射線は危ない」

低線量放射線は危険ではないという印象を与えようとしている政府を批判し、人工放射能による内部被ばくの危険性を説く。特に、若い人ほど放射線は危ないと注意を喚起する。

第6章 「活動的な日本列島と原発は共存できない」

日本列島は火山活動と関連して地熱活動が盛んで、温泉などの恵みを与えてくれる一方、廃棄物の地層処分には大きなネックになる。同様に地下水との接触は最も忌避すべきとされる。

第7章 「未来に負債を押しつける原発のゴミの後始末」

日本列島の不安定性、自然現象の状態変化の不確実性だけでなく、人間社会の将来予測の不確実

性も横たわっているという指摘は重要である。核のゴミの処理方法の問題を含め、先の見えない核廃棄物処理の実態を明らかにしている。

第8章「原発は日本の安全上の最弱点」

日本の原発は経済性が最優先で戦争やテロ攻撃に耐えるようにはつくられていない。内部には桁違いの放射性物質が蓄積されており、破壊されれば膨大な放射能汚染を生じさせることになり、国家の安全保障上全く不都合だということも見落としてはならない。

第9章「安全な原発などない」

失敗や事故の許されない原発は、技術として成立しない。「絶対安全」はあるのかという議論は欺瞞で、“本質安全”が確保されねばならない。とりわけ、安全かどうかは被害を受ける可能性のある人が決めるという視点は重要である。

第10章「原発の電気は安いほうそ」

以前から自民党政権は「原発を推進するために安い計算式を作り出す」ことに全力を注いできたうえに、原発維持のために、廃炉・損害賠償を含む高いコストを国民から徴収するシステムまで作ってしまったという。

第11章「原発は環境にやさしいという嘘」

原発は反応過程でCO₂を排出しないから「環境にやさしい」というのはフレームアップだという指摘がされている。放射性物質や廃棄物処理で大きなリスクをはらんでいる現実を見、再生可能エネルギーへの転換を求める。

第12章「『原発マネー』は社会を劣化させる」

電源三法は消費地(都市部)で徴収した税金を過疎地の原発立地自治体に配布するための法律である。また、電気料金は「総括原価方式」で決まり、電設備費や燃料費、人件費、減価償却費に宣伝費まで原価として計上できるうえ、利益まで保証されているそう。そして、巨額な宣伝費を使うことでメディア操作が行われることになる。

第13章「原発はオワコン……なのになぜ固執するのか」

電力会社もさることながら、脱原発の最大の抵抗勢力は政府だという問題がある。安倍内閣は原子カムラの利益を体現、擁護すると同時に、核兵器を作れる原発の技術を手放したくないのだ。「『核抑止力論』を無批判に前提として『核抑止力』を得ようとし、そのために原発を維持しようという逆立ちした発想はけっして東アジアの平和と繁栄に役立つ」とないという主張を確認したい。

以上の本文とともに、問題点をコンパクトにまとめたコラムにも注目したい。本書では、文科省による原発推進のための『放射線副読本』に対する問題意識は全編に底流しているが、特に「ここが変だよ、副読本」のシリーズは、副読本の記述に対する明確な反論となっていて、教育に携わる者にとって重要な視点が提起されている。

脱原発をめざすことに確信を与えてくれる本書を、是非多くの人に読んでほしいと思う。

(松田 秀子)

郵送をご希望の方は下記にご連絡下さい。1部1,800円(送料税込み)

連絡先：後藤康彦090 - 7261 - 4385 E-mail:qwt01072@nifty.com

大学入試共通テストの記述式断念から見えるもの

片山 亨

2019年12月17・18日の各紙は、一斉に「国語・数学の記述式見送り」を報じた。現行の大学センター入試に替わって2021年1月から実施される大学入試共通テストで、国語と数学に記述式問題も出題するという決定が覆されたのである。高校生、野党、マスコミ等からの批判噴出に加え、与党内からも異論が強く出されていた。

国語の記述式は、次のように実施の予定だった。問題文は現代文で、小問三問に分かれる大問一つ。解答字数は長いもので80～120字程度まで。小問の採点は5段階。各小問の評価をふまえて大問の評価を5段階(A～E)で行う。国語の場合、マーク式の問題も、従来のセンター試験と同じく出される。

本当の危険は、もっとディープなことに

〔その1〕

思考力・論理的記述力を判定したいなら、国立大学は2次試験で論述問題を出せばよい。現にそうしている。私学でも慶応は、長く難しい問題文を読ませて、800字の論述を課したりもしている。

しかし、50万人が受ける論述試験では、多様な解答を許容したら、採点業務はパンクする。それゆえ、模範解答を軸にした限定された範囲、あるパターンの解答以外は不可となる。だから

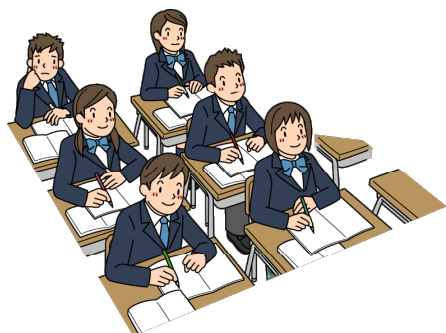
〔その2〕

2022年度から実施の新学習指導要領でも、必修の「現代の国語」2単位は、実用的な文章を学ぶことを柱とする。選択の「論理国語」も実用文書に重点が置かれる。また、選択の「文学国語」をやらない限り、小説を学ぶこともほとんどなくなる。世界(人間・生命・宇宙・政治・経済・歴史・哲学・美術などなど)を読み解く論理は、高校生には不要という宣告である。

新聞各紙は、記述式の問題点として、1. 採点ミスの可能性、2. 受験者の自己採点と実際の得点の不一致率が高いことの二点をあげている。受験生50万人。学生アルバイトを含む1万人近い採点者が20日間程度で採点するのだから、採点ミスも当然起こる。しかも、採点者によって採点基準がずれてしまう。その批判の嵐の中で、文科相の断念発表となった。採点業務はベネッセのグループ会社が落札していた。独占事業である。受験生は、採点を行うベネッセの模試を受け、その問題集に飛びつくだらう。今よりさらに深刻に、入試を企業が食い物にするはずだった。その欠陥や癒着が、「見送り」で回避された。

各予備校は、競って新論述入試向けの講座を宣伝してきた。こうして高校生は、特定の「論理的な読み取り方」「論理的な書き進め方」に、枠をはめられていく。これこそが、50万人に同じ論述試験を課してはいけない本当の理由だ。思考の進め方に枠がはめられる。論理がパターン化される。人間を愚かにする大きな口が若者を呑み込む。

新・共通試験の記述式が求めたものも、実用的なパターン化された論理を、上からの指示通りに処理する程度の能力だ。一方で、学力上位校・名門校では、学校が独自に深い読解力、論理的な文章力を付けさせている。こうして知の格差は拡大され、固定化される。それは当然、将来の、仕事の格差、経済格差となってゆく。



東京発: 15歳のヒロシマ

山田 進

1945年8月6日午前8時15分、原爆ドーム脇の相生橋上空で放たれた一発の特殊爆弾が大きな閃光を放った。その日から今日、2019年8月6日で74年目となった。

「ピカドン」、「原爆ドーム」が、15歳の私が「ヒロシマ（広島）」に対するイメージだった。この時、東京では「原子力の平和利用」が巷に流れ、実際に茨城県東海村に原子力研究所が造られ、“夢のエネルギー”と称賛された原子炉に火がともった。マスコミも含めて社会の期待は膨らんだ。この原子力発電所実施計画を推進したのが当時の国務大臣正力松太郎氏であった。

後日、知ったことだが、1957年の準備段階では、ノーベル物理学賞の湯川秀樹氏を冠に据えて原子力平和利用を掲げたが、湯川氏は、「十分に審議、検討すべきだ。」として慎重論を述べている。しかし、慎重論よりも原発推進を念頭に置く正力氏は、湯川氏をはずして推進派のメンバーをそろえて福島県に原子力発電所の建設を決めてしまったと聞いている。

1967年、ゼネラルエレクトリック（GM）社自身の実用化の前に日本がいち早くGM製の「M（マーク）1」導入を決めて建設が始まった。この日本の建設にGMも驚いている。順風満帆と思われた原子力開発。後の国産初の原子炉を積んだ原子力船構想（のちに試験航海中に放射能漏れを起こして廃船になった“むつ”）も持ち上がっていた。

そのような中で高校1年生だった私は、10月の文化祭にむけて何をやるかクラスの課題に飛びついた。私は、出し物がないのなら「原子力」についてやりたいと提案をした。簡単にその提案は通った。しかし、どのように展示を行うのか、ノウハウもなく手さぐりだった。人類初の原子爆弾。そして平和利用と言われる原子力発電所。これに使われるのが“ウラン 235”という放射性物質を知った。手さぐり状態で、まずは、東海村の原子力発電所所長に手紙を送った。稚拙と言われれば稚拙かもしれないが必死だった。早速、丁寧な資料やカラー写真パネル（展示掲示用）が日本原電より送られてきた。

まずは、アメリカにおける原子爆弾の開発について知ったことは莫大な費用と、広大な工場用の敷地と多くの犠牲を伴う実験場が必要だと

ということが後日わかった。そして造られた原爆は、戦争の終結と東西の冷戦のさなかの覇権争いに使われた。それは米ソだけでなく、アメリカの独断を許さなかった英相チャーチル氏も原爆開発競争に走り、その中で何故、日本が人類初の大量殺戮の実験場とされ、とてつもない地球規模の犠牲を被らなければならなかったのか。

その現実を知る必要にさいなまれてヒロシマに心を向け、この目で直視したいという思いで私一人のヒロシマ行を提案して賛同を得た。さらに、旅費のキャンパもお願いした。一人50円。「50円で足りるのか！」というありがたい声もあったが、ラーメン一杯50～60円の時代。貴重な金額なので「50円」でお願いした。

厚かましきついでに宿泊費は、クラスメイトが厚生省の記者クラブの記者に知り合いがいるというのでそのコネを活用させてもらった。その理由は、新聞社の記者の仮眠室に潜り込めれば旅費・食費以外の宿泊費が浮く計算になるという安直な気持ちを抱いていたからだ。友人の尽力もあってヒロシマ行が実現した。1965年8月、はじめてブルートレーンに乗った。馴れない夜汽車だったが、一人旅を満喫した。

旧盆の8月、ヒロシマにつくと、朝日新聞広島支局の支局長を訪ねた。支局長（氏名は忘れましたが）は、快く受け入れてくれ、しかも大阪本社社会部の記者が、日赤病院に被爆者の取材に来ているので同行してはどうかと勧めたが、これは交通費がかかる。しかもハイヤーだ！あとで新聞社契約の車だということがわかった。夜になって後悔をした。記者の仮眠室では申し訳ないからという理由で、大阪の記者が宿泊する小さな旅館を支局長が紹介してくれた。家庭的な旅館で新聞社の紹介もあり、おかみさんも快く受け入れてくれた。いくら安い宿とはいっても自分の懐具合が心配で食事抜きの素泊まりでお願いをした。食事は広島市の繁華街の大衆食堂を探して入ったのを思い出した。

記憶を思い起こしているが、朝日新聞の広島支局を訪れてからアルバイトの高校生としばらく談笑して、それから表通りに出て相生橋手前の富国生命ビル本社前の歩道の石畳に“人影”が残されているのを目にした。保存されているというよりも誰もが心に刻む記憶として当たり

前のように残され、当たり前のように市民が目にする記憶がそこにあるように私も心に刻んだ。現在は、1971年に“人影の石”として資料館に保存されている。今に伝える衝撃的な光景だ。

その後、平和公園に向かったと思う。左手には、小学校の時の教科書で見た“原爆ドーム（産業奨励館）”が朽ちた状態で佇んでいた。風化しそうな状態だった。“原爆ドーム”の維持・保存を巡る議論がされていた時期でもあった。雑草が生え今にも崩れそうな“原爆ドーム”だった。平和公園中央に鎮座する蒲鉾型の慰霊碑の前に立つと、空洞になった先に“原爆ドーム”がくっきりと見える。そしてその真後ろに“広島平和会館原爆記念陳列館（現資料館）”があり、一直線に並んで建てられていることに気づく。丹下健三氏の設計によるものだ。宮島の厳島神社と鳥居。平城京・平安京、そして代々木体育館の並び方。丹下氏の設計思想が意味ありげに思い浮かぶ。私は、カメラに“原爆ドーム”の全景を納めた。

2年後、文化祭で写真部として他の作品と展示したところ、広島出身のクラスメイトから四つ切パネルに納めた“原爆ドーム”を三枚購入してもらった。おかげで写真展に掛かった費用が余るほどの金額を実行委員会にわからないように後日いただいたのを覚えている。その後、“原爆ドーム”の保存が現実化し、後世に受け継がれるように修復された。

ここが今回取材のメインだと思い“広島平和会館原爆記念陳列館”に向かった。館内には、当時の遺品や被曝した人々の痛々しいその様子を納めた被写体の数々。屍を納めたものも。原爆投下の現実を目の当たりにした。目を背けたくないような悲惨な現実。でも目を背けてはいけないと思い、現実を掴み取るように見た。被爆者の手記の中には、熱さのあまり皮膚がただれ落ちたことも気づかず右往左往。熱いからと川に飛び込む人々。関東大震災時の隅田川よりもさらに地獄絵図が。10万度の一瞬の閃光から放たれた熱は川を一瞬に沸騰させ熱湯地獄と化し、地上にいるも地獄。川に飛び込むも地獄。そのような光景を目の当たりにした私は、この写真パネルを複製しようと思った。そして文化祭で見てもらおうと考え、係員に見つからないようにシャッターを切っていた。

その時、一人の老人が私の前にやってきた。私は正直に身分を告げ「是非、東京の高校生に伝えたい」というとその老人は、「是非、この光景をみてもらい、原爆の悲惨な様子を伝え、

広めてほしい。」といわれ、隠し撮りをするという罪悪感から解放された。そう言い放ってくれた方が初代資料館館長、長岡省吾（当時広島大理学部地質学教室嘱託）氏だった。さらに特別資料室の鍵を開け、多くの閲覧者がいる中でただ一人、その特別室に招き入れてくれた。「どうぞ、ゆっくり閲覧してください。」ここで書いた感想は、特別資料室内で閲覧させていただいた中の手記の一部を一読させてもらって書いた。長岡氏との出会いは今でも忘れられない。日赤病院の取材もしたくもあったが、ここでの出会いと体験は後の教員生活に大きな財産となっている。

最終日は、川沿いの広島市民球場横にあるスラム街を目にした。しかし、そこに足を踏み込む勇気はなかった。対岸の広島城方面をしばらく歩き、さびれた大衆食堂でお昼を食べた。昼時なのに客は私一人だった。夕方まで周囲を散策し、広島駅まで1時間くらいかけて歩いたが、その間のことは走馬灯のように駆け抜けてあまりよく覚えていない。夜の20時近くに出発予定の呉線經由新大阪駅行きの夜行に乗った。旧盆の時期で大変混んでいた広島駅に到着した時、駅員のアドバイスで購入した着席券を持っていたので、長旅に必要な席を確保できた。呉線は瀬戸内海沿岸に沿って三原まで走り、そこから山陽本線に合流。その間、今では鉄道ファンならたまらないSLに乗った。トンネルが多く夏の暑い盛りでもあり、汽車の窓は全開。うとうとすると煙の独特の臭いが客車内に充満。他の人もたまらず目を覚ます。そんな光景がしばらくつづく、前方の方から「トンネルに入るぞー！」と声がかかると誰もが一斉に窓を閉める。よくしたものでトンネルを出ると車両の後部から「トンネルをでたぞー！」と声が飛び、窓が解放される。一時の涼風が車内を吹き抜ける。そんなことを何度か繰り返すうちに暑さと疲れでどの車内も寝息が聞こえ始めた、私も新大阪駅到着の手前で目が覚めた。早朝の6時前だった。

そこから広島駅で案内されたとおりに開通1年とたっていない新大阪駅6：30発の新幹線“こだま”に乗車した。修学旅行の“日の出”号では京都―東京間を9時間近くかけて走ったのに、5時間10分で着いた。寝不足な目をこすりながら、新幹線の移りゆく車窓の景色を目に焼き付けた。

東京に帰って文化祭の準備に当たりながら手伝ってくれるクラスメイトに、「この写真の展示はどうだろう。」と提案をしたところ「あま

りにも壮絶でショッキングな被写体が多いのでやめた方がいい。」との意見。「資料館館長に許可をもらい、館長からも展示の希望がある。」といったが実現しなかった。この準備の過程を見ていた担任が見かねて、「実は、我が家に被爆当時の瓦を妻が持っているので展示に使ってよい。」との申し出。小さなかけらだったが、桐箱に納められた“被曝した瓦”は、文化祭当日の目玉となり、担任の先生に感謝！ 展示の発表は、原子力の平和利用と核兵器による惨劇

をもたらした原爆による現実のごっちゃ混ぜで、しかも天井から継ぎ足しの模造紙に書くだけ書き吊るすといった展示。

後日、担任からは「字が多すぎて内容がよく伝わらなかった。」と指摘され、友人と反省。初日こそ来場者が多かったもののほとんど字面ばかり（平和利用宣伝のカラーパネルが3枚）の展示にうんざりしたのか2日目からの来場者は減った。しかし、この経験はいまでも反原発、核兵器反対へのエネルギーとなっている。



核兵器廃絶署名のお礼と報告

核兵器廃絶1000万署名へのご協力ありがとうございました。地域の会合での署名集めや、ご家族の御協力など、会員の皆さまには努力をしていただきました。おかげさまで、445筆集めることができました。署名が返送されてくると、皆さまのお気持ちが届いたようで、嬉しく思いました。

この署名は都高教にお渡しし、都高教より上部団体へ提出しました。本来なら4月に、ニューヨークの国連本部で行われる核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に、連合・原水禁・KAKKINの3団体から、日本政府・国連に届けられるはずでした。しかしコロナ感染拡大のため、NPTが延期になりました。今後の署名の取り扱いについては、次回のニュースでご報告したいと思います。

いずれにしても、核兵器禁止条約批准に反対している日本政府の姿勢を改めさせ、核保有国が軍縮の義務を果たし、核兵器廃絶の取り組みが前進するように、NPT再検討会議に私たちの声を届け、注目していきたいと思ひます。



東京オリンピック開催と新型コロナウイルスのこと。もしくは英語のお勉強

新型コロナの感染拡大をめくり、中止や延期の可能性が議論されている東京五輪・パラリンピック。ところが、安倍首相は14日におこなった記者会見で、東京五輪について、「来週にはいよいよ聖火を日本に迎え入れます。私自身、26日には福島を訪れて、聖火リレーのスタートに立ち会います」「われわれとしては、とにかくこの感染拡大を乗り越えてオリンピックを無事に開催したい」などと語り、予定通り今年7月に開催の意向を示した。

新型コロナは日本だけでなく世界中に感染が拡大し、いまだ収束の見通しが立たないなかでの安倍首相の発言に、世界中のツイッターユーザーがツッコミを入れまくっています。

「Do you think that 's wise, sir?」

「Only his country will participate 」

「There seem to be no sign of intelligent life anywhere 」

「He'd better come up with a cure, sharpish 」

「Does he know something that nobody else does?」

「Didn ' t say which July though did he?」

「He can vow all he likes. But July will be peak covid19 」

「To be fair.. we dont know what state the world will be in then. His heart is ruling his head! It's only 16 or so weeks away... They cant leave it to the last minute to call it off 」

「It means Nippon will win most of the golds.... and silvers.... and bronzes and with 4th, 5th and 6th also, should hopefully finish top of the medal chart despite the odd drug failure.....」

「Aka we've already spent so much money 」

「I do believe in fairies

I do believe in father Christmas

I do believe in the Easter Bunny

I do believe in Tok... well I want to believe, but y ' know, really 」

日本国内でどれだけ「感染はそこまで広がっていない」「持ちこたえている」「五輪は開催できる」などと強弁したところで、そんなものが世界的に通用するはずがない。日本のメディアと国民は、この海外からの大量のツッコミを読み返して、少し目を覚ましたほうがいい。

(以上、「L I T E R A ・リテラ」<https://lite-ra.com/2020/03/post-5315.html> ・3・16より)

3月16日、「G7首脳テレビ協議」後、アベは「完全な形で実現することで支持を得た」と発言。中止、延期、無観客ではなく、予定通りの開催を意味するらしい。しかし、「完全な形」という表現が言い得て妙ですね。アベの浅知恵では思いつかない表現。裏の司令官・振付師の入れ知恵でしょう。今夏の実施は諦めて、延期を1年後にするか、2年後にするか、ということになった場合の逃げ道として表現した、とも。発端となったトランプ発言に対してポチ・アベは貫けるかどうか。

昔からの「アメリカがくしゃみをすると、日本は風邪をひく」という表現がまだまだ(ますます)相変わらず適用されると思っているのですが。

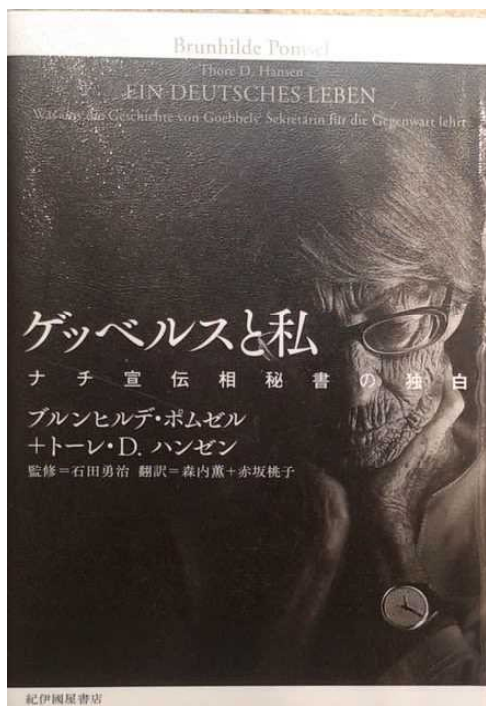
そういえば、井上ひさしの戯曲に『うかうか三十、ちよろちよろ四十』という作品があります。世間の風に「うかうかちよろちよろ」しているうちに人生が終わりにならないように、自戒。

(この項、編集子)



『ゲッベルスと私—ナチス宣伝相秘書の独白—』（紀伊國屋書店）

（ブルンヒルデ・ポムゼル＋トーレ・D・ハンゼン）



「自分に与えられた場で働き、みなのために良かれと思ったことをする。誰かに害をなすかもしれないと、わかっている。それは悪いことなのかしら。エゴイズムなのかしら。それでも人はやってしまう。人間はその時点では、深く考えない。無関心で、目先のことしか考えないものよ。」

（ブルンヒルデ・ポムゼル）

本書は、ヒトラーの時代を知る最後の生き証人、2017年に106歳で亡くなったドイツ人女性ブルンヒルデ・ポムゼルの物語である。本書刊行と同時に公開されたドキュメンタリー映画「ゲッベルスと私」の制作にあたり、30時間に及ぶインタビューの記録を編集し、ドイツのジャーナリスト、トーレ・D・ハンゼンが長文の解説を付して出版された。

生い立ち、家庭環境、・・・青春時代から国営放送局、そして国民啓蒙宣伝省に入って、ゲッベルスの秘書となり、敗戦を迎え、5年間ソ連に抑留された後、解放され、その後、103歳のときのインタビューを受けるまでの彼女の生き様が語られ、整理され、編集されていく。

インタビュー当時（103歳）の総括の言。「自身の罪につ

いての永遠の問いに対しては、私は早い時期に答えを出した。私には、何の罪はない。だって、なんの罪があるというの？ いいえ、私は自分に罪がないとは思わないわ。あの政権の実現に荷担したという意味で、すべてのドイツ人に咎があるというのなら、話は別よ。そういう意味では、私を含めみなに罪があった。」（P 166）

トーレ・D・ハンゼンは、

私たちはおそらくはまだ、ポムゼルの言う「ガラスのドーム」（注：「ナチスが権力を握ったあとでは、国中が巨大な強制収容所の中にいたのよ。ヒトラーが権力を手にしたあとでは、すべてがもう遅かった」）の中で、不安と無知のために立ち尽くしている。念頭にあるのは自分の利益ばかりで、社会の状況には目をつぶってご都合主義を貫き、右翼ポピュリストの台頭に間接的に手を貸し続けている。ポムゼルが言うように、そこから抜け出す逃げ道はないのだろうか？ 無知と無関心が潜在的な罪であるならば、現代の私たちが担う責任は非常に大きいという主張は、意外でも何でもない。ナチ政権の時代の人間なら、知らなかったと弁明することができるかもしれない。だが私たちは彼らより歴史を知っている分、わかっているなければならない（P 239）、と。

主権者である国民が、権力の動きに目を向けず、自分の仕事や出世、身の回りのことばかりに気を取られていれば、為政者は易々と恣意的な政治、自分本位の政治を行うだろう。それに批判的精神を失ったメディアが追随すれば、民主主義はチェックとバランスの機能を失い、果てしなく劣化していく。これは、他でもない現在の日本で起きていることである。

ところで、本書には、映画撮影後、亡くなる2ヶ月前にスタッフに語った、ユダヤ人の恋人との別れについての記述がある。ポムゼルは妊娠し、別れた後、中絶した。その後、生涯、独身を貫き、子供も持たなかった。

カメラを前にしては話せなかったのだろう。それは、時代に翻弄された、ひとりのドイツ人女性の、長い人生においての、余りに切ないエピソードである。

（blog「おやじのつぶやき」2019-08-02より）

カンパのお礼・カンパのお願い

2019年8月～2020年2月末までにいただいたカンパのお礼を申し上げます。

今回も、都高教退職者会や辺野古へのカンパをいただいたおかげで、ニュースの年2回発行や辺野古の闘いへカンパができました。会員の皆さまの暖かいお気持ちに、感謝しております。

2019年度カンパの総額と支出の内訳は総会の時にご報告いたします。

実は今回もミスがありました。2018年9月にカンパをいただいた会員のお名前を載せていませんでした。大変遅くなりましたが、今回お名前を掲載させていただきました。深くお詫びいたします。今後も校正等をさらに厳格に行い、失礼のないようにしたいと思いますのでお許してください。

都高教退職者会はこれからも、憲法・平和を守る活動を行い、地公退や退職者連合とともに「年金・医療・介護」に取り組みます。また「歴史散歩」「メーデー懇親会」など会員相互の親睦も行います。

引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

カンパをいただいた皆さん（2019年8月～2020年2月末日・順不同、敬称略）

村上 史子	加藤 良雄	小林 育枝	田中 道暁	佐藤 光子	片山 亨
中川 寿子	貫井 茂	橋本 徳朗	大澤 光美	上條 毅	田中 直美
矢島 恒之	小嶋 昌夫	高根 親子	三井田 達雄	阿部 武	斉藤 善仲
藤原 正子	浜田 正紀	藤野 功二	佐藤 英子	佐藤 正八	塚越 恵美子
上野 養生	池田 伝	織田 勇	相原 昭夫	山田 功	梅崎 幸信
石塚 恵子	岡部 保博	高安 要夫	山本 光雄	隅田 三朗	松浦 利貞
棚井 行隆	長島 浩	斎藤 義夫	二日市 健一	正村 昭孝	岩木 俊一
猪平 信雄	市原 精二	武藤 徹	石垣 康雄	北村 美佳	福嶋 常光
藤井 利明	下山 伸吾	茂木 弘子	祭澤 伊久里	多田 純一	加藤 修弘
齋藤 修	齋藤 三男	中野 章	村野 英克	川辺 寛子	池田 幹子
藤原 立子	田村 尚子	品川 昇	吉野 圭子	志村 洋子	柴内 信子
中下 鸞平	小林 久二子	和仁 てる	板津 久子	市川 孝司	中島 ゆき子
鈴木 秀肖	石射 保	田口 鐵也	竹内 健三	鈴木 みち子	大庭 千世子
山本 和夫	下野 紀子	長坂 幸夫	園田 美男	多田 純一	



都高教退職者会の皆様へ

日本教職員相互共済会からのお知らせ

日本教職員相互共済会は 2020年代半ばごろに事業の終了を予定しています

当共済会は、1982年に日教済（現在は教職員共済）の「退職者共済」を移管し、これを運営する組織として出発しました。以来、お支払いした共済金の総額は190億円を超えています。一方、共済発足時には想定されていなかった超低金利・ゼロ金利が長期化しており、「お支払いいただいた掛金の運用利息で共済事業を行い、最終的には掛金相当額もお返しする」（改定退職者共済の場合）という当会の事業構造に無理が生じてまいりました。

このような事態を受け、当会は第71回通常総代会（2019年6月27日）において、「会員の皆様に掛金相当額をお返しできるタイミングを見極め、その時点で事業を終了する」という基本方針を確認しました。事業の終了は2020年代半ばごろを想定いたしております。

1. 「退職者共済」は教職員共済と当会で分担してお引き受けしています

	教職員共済が管理	相互共済会が管理
改定退職者共済 (1981～ 1999年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約)	長期療養見舞金 (入院特約)
新退職者共済 (2000～ 2001年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約) (入院特約)	長期療養見舞金 人間ドック給付

退職者共済は、左の図の通り教職員共済と当会で分担してお引き受けしています。このうち事業を終了するのは、相互共済会が管理している部分（網掛け部分）になります。

2. 事業終了に際しては、お支払いいただいた掛金相当額を返戻金としてお支払いします

（改定退職者共済の場合）

改定退職者共済については、お支払いいただいた掛金（一口5万円、二口まで）は、共済金支払いに必要な責任積立金として教職員共済と分担して管理されており、事業終了時には当会分の全額をお返しします。なお、その際に教職員共済分を同時解約された場合、お支払いする返戻金の総額は「一口あたり5万円」を下回りません。（長期療養見舞金を2度お支払いした方については下回る場合があります）

3. 円滑な事業終了に向け、万全の準備を進めてまいります

事業終了までの間、当会は従来通りの共済事業を継続します。共済事由が発生した場合、遠慮なくご請求ください。また、事業終了に向け混乱を招くことのないよう万全の準備を進めてまいります。現在、この準備の一環として「早期解約キャンペーン」を実施中です。2020年10月末日までにご解約いただいた方にはエコバックをプレゼントさせていただいておりますので、ご協力いただければ幸いです。

お問い合わせ 日本教職員相互共済会フリーダイヤル 0120-940-549
教職員共済生活協同組合フリーダイヤル 0120-568-372

都高教・都高教退職者会共催 憲法学習会

「憲法とジェンダー」

講師 中野麻美さん（弁護士）

日時： 5月30日（土） 15時～17時

場所： 日本教育会館 707

（地下鉄神保町A1下車5分）

〈中野さんのプロフィール〉

1979年 弁護士登録。NPO派遣労働ネットワーク理事長。日本労働弁護団常任幹事。

著書…「雇用破綻最前線—雇止め・派遣切り・条件切り下げ」（岩波書店）

「労働ダンピング～雇用の多様化の果てに」（岩波新書）

「ハラスメント対策全書」（編著：エイデル研究所）

「派遣法改正で雇用を守る」（共著：旬報社）他多数

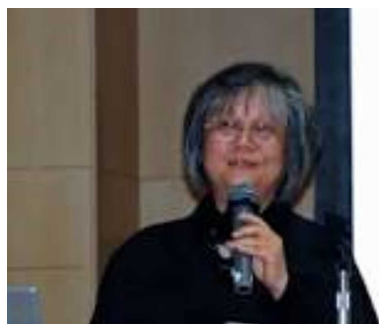
労働問題や差別・格差などに取り組み、活躍してきた。

また現在安保法制違憲訴訟・女の会の代理人も務める。

〈講演は・・・〉

2014年閣議決定による解釈改憲、そして2015年安保法制強行採決以降、日本は戦争のできる国へと舵を切りました。この軍事化は専守防衛の枠を超え、防衛予算を膨張させ、社会保障や福祉を圧迫しています。また女性や障害者や外国人への暴力や排除、そして自然災害や感染症対策など、私たちの安全保障もおろそかにされています。

労働問題や差別・格差、そして安保法制違憲訴訟・女の会の闘いなど、中野さんがこれまでジェンダー平等の視点で、手掛けてこられた課題や裁判、そして憲法への取り組みをお聞きします。そして私たちも、憲法をジェンダーの視点でとらえ直し、これからの闘いにつなげましょう！



2020年度 第6回 辺野古座り込みツアーへのお誘い

昨年 12 月防衛省は、辺野埋め立て予定地の軟弱地盤改良工事のため、工費と工期の大幅増を認めました。

地盤改良は大幅な設計変更のため、沖縄県の承認が必要です。しかし一昨年の県民投票での民意は「辺野古新基地建設NO!」でした。現在闘いは安和・塩川港・そしてキャンプシュワブグレート前と3ヶ所に及び、現地では多くの高齢者が土砂の搬出・搬入を阻もうと、座り込んでいます。

私たちも「あきらめないこと」を肝に銘じて、沖縄の人たちと共に、しなやかに楽しく非暴力の闘いをしたいと思います。退職者会の仲間たちと一緒に、辺野古座り込みに参加しませんか？

記

- ☆ 日時 6月23日(火)～25日(木)
- ☆ 集合時間 6月23日(木) 16時(できれば15時半過ぎ頃、早めにお集まりください)
- ☆ 集合場所 那覇空港1階到着ロビー外「レンタカー送迎バス乗り場」の都高教退職者会の旗付近。空港到着口から出口に向かい横断歩道を渡り、中央分離帯のスペースにあります。

- ① 日 程 6月23日(火)名護 「ルートイン名護」付近の居酒屋で県退教・高退教などと懇親会
6月24日(水)名護 「ルートイン名護」8時15分出発→辺野古座り込みと安和の行動参加

- 昼は、お弁当を予約します。
- 夜 懇親会。

6月25日(木)名護 ホテル「ルートイン名護」8時15分出発→辺野古午前中座り込み。午後は途中伊芸 SA で昼食をとり、空港へ向かう。

- ② 往復の飛行機は各自でおとりください。3か月前なら往復25000円くらいです。
行き… 6月23日(火)那覇空港に15時半前後に到着できる飛行機
帰り… 6月25日(木)那覇空港17時過ぎ出発の飛行機
- ③ ホテル 名護のホテルを2泊、各自でご予約下さい。ビジネスホテルなら一泊7000～8000円くらいです。
本部は、名護「ルートイン名護」なので同じホテルを予約されると便利です。
- ④ 費用 退職者会総会にご持参ください。総会参加が難しければ集合時に集めます。
15,000円 (レンタカー・高速料金・ガソリン・弁当・懇親会費用等)
- ⑤ その他 全部合わせて費用は、55000円くらいかかります。
 - ・沖縄では、日焼け対策として帽子・長袖シャツ・マスク・サングラスなどが便利です。
 - ・大雨の場合、雨具(上下)・ビーチサンダルがあると助かります。
 - ・水分補給を十分にしてください。
 - ・両日とも朝食はしっかりおとりください。
 - ・辺野古座り込み現場はトイレ送迎車が頻繁に出ているのでご安心ください。
 - ・申し込み締め切りは4月末日です。

問い合わせ・申し込み：本村富美子(都高教退職者会会長)
携帯090-8813-1264 [メールfumimotomura221@asahinet.jp](mailto:fumimotomura221@asahinet.jp)

